

京都外国語大学大学院紀要

言語と文化

第18号

March 2024

Language and Culture

研究論文

- 「受ける」の受け身的意味にかかわる諸問題の考察
——中国語の受け身と日本語の受け身の相違を考えて…………… 崔 子銘
- 日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の
意味や用い方の相違の考察…………… 陳 功麟
- 「好意感情」を表す中国語の“喜欢”に対応する
日本語表現に関わる諸問題をめぐって
——日本語の「好き」を中心に…………… 田 曉潔
- 日中漢字同形語に関する研究の現状とその課題
——研究文献レビューに基づいて…………… 湯 皓祺

京都外国語大学

目次

研究論文

「受ける」の受け身的意味にかかわる諸問題の考察 —— 中国語の受け身と日本語の受け身の相違を考えて	崔 子銘	1
日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の 意味や用い方の相違の考察	陳 功麟	11
「好意感情」を表す中国語の“喜欢”に対応する 日本語表現に関わる諸問題をめぐって —— 日本語の「好き」を中心に	田 曉潔	23
日中漢字同形語に関する研究の現状とその課題 —— 研究文献レビューに基づいて	湯 皓祺	35
編集後記		53

CONTENTS

Articles

Consideration of Various Issues Related to the Passive Meaning of ‘受ける’:
Reflecting on the Differences between the Passive Voice in Chinese and Japanese CUI Ziming 1

Consideration of the difference in meaning and usage of kanji homographs
with “Wan” in Japanese and Chinese..... CHEN Gonglin 11

On the Problems Related to the Japanese Expression “xihuan” in Chinese,
which Expresses Fond Feelings:
Focusing on the Japanese word “like”.....TIAN Xiaojie 23

Current Status and Issues of Research on Japanese and Chinese kanji Expressions:
Based on research literature review TANG Hao Qi 35

Editor’s postscript 53

「受ける」の受け身的意味にかかわる 諸問題の考察

中国語の受け身と日本語の受け身の相違を考えて

崔 子銘

要 旨

本稿では、コーパスを利用し、「受ける」がどのようなヲ格名詞と結びつくかを調査し、その中国語訳と比較しながら、日本語の「受ける」が中国語の受け身表現に翻訳される場合のヲ格名詞の特徴を明らかにする。さらに、中国語の受け身表現に翻訳されないヲ格名詞の特徴についても検討する。「影響を受ける」は中国語で“被影响”と表現されるが、「授業を受ける」の中国語訳では“被”構文では訳さないため、その原因を探る。

調査の結果、①コントロールできない事柄を表すヲ格名詞と「受ける」の組み合わせは、中国語の受け身文で対応できる。②「受ける」が担う受け身の文法的機能と中国語の受け身表現との共通点が窺えるが、対応できないケースも存在する。③客観的な視点で述べる場合や、当事者自身がコントロールできる事柄、利益を得る事柄を表す場合には、中国語の受け身表現には置き換えられないことが多い、という特徴が窺えた。

はじめに

日本語では、受動的な意味を表す場合、「影響された」のように動詞の受動態を用いることが一般的である。だが、下記の例(1)¹⁾、例(2)において、「影響された」は「影響を受けた」にも置き換えられるように、日本語の「受ける」は受け身のマーカー「レル・ラレル」の代わりに、受け身の意味を表すことができる。

- (1) 息子はどうやら質の良くない友達に影響されたみたいだ。
- (2) 息子はどうやら質の良くない友達の影響を受けたみたいだ。

日本語の「受ける」は中国語の“被”を含む受け身文に訳されることがある。これは、一部の辞書で挙げられた例からも見られる。下記の例(3)、例(4)は『中国語辞典』²⁾の例であり、日本語の「受ける」は中国語の受け身表現に訳されている。

1) 本論文に使用する例文は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、『中国語辞典』、Yahoo!から収集したものである。

2) 伊地智善継(2002)『中国語辞典』白水社

(3) 5 番の選手がペナルティーを受けて退場した。／五号队员被罰下场了。

(4) 100 余人が捜査を受け家財を没収された。／有一百多人被抄家。

上記の例のように中国語では、受け身の意味を表す場合、動詞の前に前置詞“被”（给、叫、让、由、受等）を用いて受け身を表すことが多いが、日本語では動詞の受け身形で表現されることが多い。一方、「試験を受ける」（考试）「電話を受ける」（接电话）のように、「受ける」と共起する名詞が「試験」「電話」などになる場合、「受ける」は中国語の“被”を含む受け身文に訳すことができなくなる。

以上のことから日本語の「受ける」という動詞は、必ずしも中国語の受け身文に翻訳可能であるわけではなく、文脈によっては受動文への翻訳が不適切であることが示唆される。

本稿では、コーパスを用いて例文調査を行い、「受ける」はどのようなヲ格名詞と結びつくのか、「（ヲ格名詞）を受ける」構文はどのような場合に中国語の“被”を含む受け身文に訳すことができないのか、という点に着目し、日本語の「受ける」と中国語の受け身表現との関わりを明らかにすることを研究目的とする。

1. 先行研究

朱 (2013) は「受ける」のヲ格名詞について統語的な考察を行い、「受ける」は「影響」「処分」等の動名詞³⁾、「衝撃」「打撃」等の動作性名詞⁴⁾、「扱い」「誘い」等の動詞転成名詞と結びつく場合、受け身の文法的機能を果たす機能動詞⁵⁾として見なすことができると指摘している。一方で、朱 (2013) は「受ける」と中国語の受け身表現との関係について多くは言及していないが、「受ける」と受け身表現に共通点があることについては指摘している。

筆者は、「受ける」が「動名詞」「非動名詞の動作名詞」「動詞転成名詞」のヲ格名詞と組み合わせると、機能動詞としての文法的機能を果たし、受け身表現に置き換えられる、という朱 (2013) の結論に不十分な部分があると考ええる。実際には、「（ヲ格名詞）を受ける」構文が、すべての状況でそのヲ格名詞の受け身表現の意味と一致するとは限らない。下記の例 (5)～例 (8) がその例文である。

(5) 児童は、教育を受ける権利を有する。

(6) 女性は教育を受ける権利をもつ。

(7) 医者になるように教育される。

3) 本稿では影山 (1993) の定義にしたがい、「影響」「検査」「アドバイス」のように「する」を伴って動詞化できる名詞のことを動名詞と呼ぶ。

4) 本稿では朱 (2013) の定義にしたがい、「被害」「ショック」などの語は「する」を伴って動詞化できないが、動作性が強く感じられるため、非動名詞の動作性名詞と呼ぶ。

5) 機能動詞とは、村木の定義によると「実質的な意味を名詞にあずけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞」（村木 1991: 203）を指す。本稿ではこの定義にしたがう。

(8) 若きダニエルは、それらの“博士”の一人になるよう教育された。

例(5)、例(6)と例(7)、例(8)において、「教育を受ける」と「教育される」は異なるニュアンスがあるため、一概に両者、置き換えられることはできない。例(5)、例(6)の「教育を受ける」は「子供」や「女性」などのような不特定の集団を当事者として扱い、「知識」という対象を得ることを表す。それに対して、例(7)、例(8)の「教育される」は不特定の集団を当事者として扱うのではなく、「息子」などの具体的な個人を当事者として位置づけている。

このようなニュアンスの差異ゆえに、「(ヲ格名詞)を受ける」構文と「動名詞+『レル・ラレル』』という受け身表現が同時に用いられる場合があっても、「受ける」が必ずしも機能動詞として受け身表現に置き換えられるとは言い切れない。

また、「教育」という動名詞以外にも、「(ヲ格名詞)を受ける」構文がヲ格動名詞の受け身表現と置き換えられない動名詞もある。以下の例(9)～例(16)がそれである。

(9) 彼女は歌手としてクラシカルな訓練を受けている。

(10) 通常の教師にとって、点字を学び、専門スキルの訓練を受ける時間はないかもしれない。

(11) その犬は泥棒の番をするように訓練されている。

(12) 聖職者として訓練された。

(13) この航海はスペイン王室の資金援助を受けた。

(14) おばからの資金援助を受けてなんとか大学に進学することができた。

(15) 国際農業開発基金によって資金援助された革新的な灌漑及び農業技術プログラムを称賛する。

(16) 基本的にインド市民権を持つ学生が対象で、パークリー音楽大学での4年間の授業料が資金援助される。

例(9)、例(10)の「訓練を受ける」は、当事者が置かれている受け手の立場から、「訓練」という出来事について述べている。それに対して、例(11)、例(12)の「訓練される」は、当事者が置かれている状況を表している。

また、例(13)、例(14)の「資金援助を受ける」は、当事者が受け手の立場から、「資金」という事物を得たことを強調している。それに対して、例(15)、例(16)の「資金援助される」は、当事者が利益を得たという点に焦点を当てているのではなく、むしろ、より客観的な視点から、誰かが資金援助を受けたという点が強調されている。換言すれば、この場合において「受ける」は、受け身表現であるというより、当事者が受け手の立場において「利益を得る」ことを強調したものであると考えられる。

上記において、「(ヲ格名詞)を受ける」構文が強調するポイントとして、そのヲ格名詞の受け身表現とは異なるということを示した。つまり、「(ヲ格名詞)を受ける」構文が必ずしもヲ格名詞の受け身表現と置き換えられるとは言えない、ということが判明した。従って、朱(2013)が主張した、「(ヲ格名詞)を受ける」構文の「受ける」が機能動詞としての文法的機能を果たし、「ヲ格動名詞」の受け身表現と置き換えられるという結論については、検討の余地があるということが確認された。

また、朱(2013)は「衝撃を受ける」のような非動名詞の動作名詞は「する」を伴って動詞化できないため、文法的受け身形式の「レル・ラレル」形が欠如し、「受ける」を用いた語彙的形式は受け身の意味を表す唯一の表現形式であると指摘している。しかしながら、「命⁶⁾を受ける／听命令」のように、すべての非動名詞の動作名詞と「受ける」の組み合わせが、中国語において文法的受け身形式の「レル・ラレル」の代わりに、受け身の意味を表すわけではなく、一部の場合では「受ける」が「(ヲ格名詞)を受ける」構文の中で内容語として使われることを示し、中国語への翻訳では受け身文として表現されない事例も存在する。

さらに、朱(2013)は「影響性⁷⁾」の観点から、漢語動名詞の「レル・ラレル」形の文法的受け身形式と「受ける」を用いた語彙的受け身形式を対照し、「説明を受ける⁸⁾」のように、「影響性」が受動文に属する「レル・ラレル」形の文法的受け身文の成立を左右する大きな要因であると結論づけている。しかしながら、「融資⁹⁾を受ける／拿到融资」のように、すべての「影響性」を捉える動名詞と「受ける」の組み合わせが中国語において受け身の意味を表すわけではなく、一部は「受ける」が「(ヲ格名詞)を受ける」構文の中で内容語として使われ、中国語への翻訳では受け身文として表現されない事例も存在する。

以上のように、朱(2013)によって定義された「受ける」のヲ格名詞のカテゴリーは、「被動文」との相互変換性にとどまっている。しかし、「(ヲ格名詞を受ける)」構文が中国語に翻訳される際に受け身文と相互変換可能か否かについて、朱(2013)が提案するヲ格名詞の分類には更なる検討が必要となる。

2. コーパス調査

筆者は、国立国語研究所とLago言語研究所が開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』¹⁰⁾を利用し、「受ける」のヲ格名詞を調査した。

6) 朱(2013)によると、ここでの「命を受ける」の「命」は抽象名詞の「生命」ではなく、「命令・言いつけ」の意味を表すため、非動名詞の動作性名詞の類に入れている。

7) 益岡(1991)は「受影響動文は、ある出来事から主体が何らかの影響を受けるという事態を表すもの」と述べている。

8) 朱(2013)は、「客は店員に商品の使い方を説明された。／客は店員から商品の使い方の説明を受けた。」という場合、「影響性」とつじつまを合わせるために、客が商品に興味がないのに、店員から一方的に説明されたという解釈になると述べた。

9) 朱(2013)は、「融資」の場合は、融資により、資金の移動があり、物理的な変化として捉えることができ、「影響性」を想定しやすいためであると述べた。

10) 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ). <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/index.html> (調査日：2023年10月10日)

調査の結果、「受ける」と共起するヲ格名詞として「影響」の頻度が1,549回と圧倒的に多く、次いで「教育」「被害」「ショック」「許可」の順となっている。出現頻度上位50語のうち、「被害」「ショック」「洗礼」「判決」「恩恵」「扱い」の6語は動名詞ではないが、残りの44語はすべて動名詞である。非動名詞の6語のうち、「扱い」は動詞連用形転成名詞で、「被害」「ショック」の2語は「する」を伴って動詞化できないが、動作性が強いため、朱(2013)はこれらを非動名詞の動作性名詞として分類した。また、「恩恵」「洗礼」「判決」といった一般名詞も存在する。

また、筆者はコーパスにより、「受ける」と組み合わせの頻度が高い動名詞が、どれぐらい文法的受け身形式の「レル・ラレル」として用いられるのかという出現頻度¹¹⁾について分析し、各動名詞の出現頻度を、「使用頻度が高い」「使用頻度が中程度」及び「使用頻度が低い」の3つのレベルに分類した(表1)。この分析結果に基づき、次節で「受ける」の中国語訳の特徴について論じる。

表1 「受ける」と組み合わせる動名詞が「レル・ラレル」の形で使われる頻度

高い			中程度			低い		
出現頻度の順位	名詞	頻度	出現頻度の順位	名詞	頻度	出現頻度の順位	名詞	頻度
1	適用	1,708	14	質問	360	30	控除	96
2	評価	1,527	15	指示	338	31	給付	66
3	指定	1,390	16	刺激	333	32	検査	48
4	報告	1,105	17	依頼	324	33	支援	41
5	登録	835	18	許可	312	34	治療	34
6	提供	739	19	交付	297	35	サービス	27
7	説明	648	20	相談	264	36	融資	18
8	診断	529	21	攻撃	208	37	援助	16
9	保護	518	22	認可	164	38	手術	13
10	認定	429	23	命令	140	39	診察	10
11	承認	414	24	処分	138	40	試験	4
12	要請	410	25	訓練	117	41	印象	4
13	影響	392	26	指導	112	42	感銘	2
			27	教育	102			
			28	通知	102			
			29	委託	98			

3. ヲ格名詞と共起する「受ける」の中国語訳

本節では、ヲ格名詞として最も多く出現する動名詞と共起する「受ける」の中国語訳の特徴について、例文を通して分析する。この場合の「受ける」は、日本語において受け身

11)「受ける」と組み合わせる動名詞を「レル・ラレル」で使われる頻度に基づいて並べ替えた後、上位30%の単語を出現頻度が高い語、下位30%の単語を出現頻度が低い語、そしてその間の単語を出現頻度が中程度の語として分類する。

マーカー「レル・ラレル」の代わりに受け身の意味を表現することができる。筆者は「受ける」と結びつくヲ格名詞の中で、表1に示すような、特に「レル・ラレル」で使われる頻度が高い動名詞「適用」「評価」「指定」などのヲ格名詞を含む「受ける」の使用例を中心に考察する。

3.1 「受ける」が中国語の受け身表現に訳することができる場合

まず、下記の「受ける」の使用例を分析する¹²⁾。

(17) 先生に高い評価を受ける。／被老师予以高度评价。

「評価」の場合、「先生に高く評価される」は自然な表現であり、中国語の受け身“被～评价”にも対応する。これは、当事者が権威ある側に認められたことを表す。

(18) 都道府県から指定を受けた公益法人が、市町村レベルで職業リハビリテーションを実施することが可能となった。／被都道府县指定的の公益法人，现在可以在市町村层面上实施职业康复。

(19) 説明を受けて、その症状を自覚する。／被人这么一说之后，我自己发现了那个 症状。

(20) 我々は法律の保護を受ける権利がある。／我们有权利受法律的保护。

(21) 国家・集団により生活保護を受けている家庭。／接受国家或团体生活援助的家庭。

(22) 介護保険の認定を受けていない。／介護保险还没有被认证。

(23) この申請は1月中に承認を受ける。／这个申请会在1月份之内被批准。

(24) この計画は承認を受けた。／这个方案被批准了。

以上の例文についても、「レル・ラレル」で使われる頻度が高い動名詞「指定」「報告」「説明」「保護」「認定」「承認」「影響」などがヲ格名詞となる場合、朱(2013)が言及した「影響性」を捉えやすい点は共通している。また、中国語に訳される場合、動詞の前に前置詞“被”(給、叫、让、由、受等)を用いて動作主を明示し、受け身の形式で表すこともできる。

(25) テロ事件の影響を受けて、物価が跳ね上がった。／受恐怖事件的影响，物价腾贵。

(26) この部屋は外気の影響を受けにくい。／这个房间很难被外面的空气影响。

12) 例文(17)から(38)における中国語訳は、筆者による。

そして、例(25)、例(26)の「影響を受ける」は例(17)から(24)に共通するように、当事者が外部の出来事に影響されたことを表している。また「影響」には良い影響も悪い影響もあるが、例(25)、例(26)のような悪い影響を表す文脈は、中国語では“被”という受け身表現で対応する方が自然である。一方、「影響」というヲ格名詞が良い影響を表す文脈では、中国語の“被”で対応するのは不自然に感じられる。以下はその例文である。

- (27) 貴族出身でない芸術家も人文主義の興隆のおかげで影響を受けた。／非贵族出身的艺术家也通过人文主义的兴起受到了影响。
- (28) 貴族出身でない芸術家も人文主義の興隆のおかげで良い影響を受けた。／*非贵族出身的艺术家也被人文主义的兴起影响了。
- (29) 先輩方の活躍する姿を見て、新入生の皆さんも良い影響を受けた事でしょう。／新生们看到前辈们活跃的身影，受到了良好的影响。
- (30) 先輩方の活躍する姿を見て、新入生の皆さんも影響を受けた事でしょう。／*新生们被前辈们活跃的身影影响了。

例(27)の「影響」は、例(25)の「影響」とは異なり、当事者が外部からの良い影響を受けていることが推察できる。この文脈では、例(30)と同様、中国語の“被”に訳されると、当事者が悪い影響を受けていると誤解を招く恐れがある。利益を得ることを表す際に、当事者が外部の出来事に影響されてその利益を得た場合、一概に中国語の“被”によって対応することができない。この場合の“受到”は、受け身表現“受”を含むが、ここでは日本語の「得る」という動詞に近く、好評・経験・優勝・成果や表彰・称赞・発展・成功などの肯定的な事物を手に入れることを表す。

3.2 「受ける」が中国語の受け身表現に訳することができない場合

3.1で分析したように、中国語の受け身と対応可能な「受ける」もあれば、中国語に訳される際に受け身には置き換えられない「受ける」もある。次にこの場合における「受ける」の使用例を分析する。

- (31) 割引の適用を受けるには従業員にクーポンをご提示頂く必要があります。／享受折扣需要向工作人员出示优惠券。
- (32) 完全週休二日制の適用を受ける労働者の割合は59.3%。／享受完整的双休日制度的劳动者占比为59.3%。
- (33) 我々は、資金提供を受けるために、出版物を量産しなければならない。／我们需要将出版物量产，以便获得资金支持。

上記の例(31)の「適用」の場合、「割引が適用されるには従業員にクーポンをご提示頂く必要があります」は自然であるが、中国語に訳す際には受け身を用いない。この文脈では、当事者が「割引の適用を受ける」ことによって受けた影響は正の影響であり、つまり利益を得ることを表す。このような場合、「受ける」を中国語の受け身表現ではなく、「享受」「获得」などの成果・成功などの肯定的な事物を獲得することを表す表現に訳す方が自然である。例(33)の「提供」の場合では、構文も「金を手に入れる」という利益を得る表現を表すため、中国語の受け身でなく、「受ける」を肯定的な事物を獲得することを表す「获得」を用いている。そのため、「(ヲ格名詞)を受ける」構文を中国語に訳す際には、文脈が利益を得る意味を表す場合、中国語では受け身表現ではなく、肯定的な事物を獲得することを表す表現に訳される。

(34) まだ報告を受けていません。／我还没收到汇报。

(35) 活動総括は既に報告を受けた。／工作总结已经上报。

上記の例(35)の「報告」の場合、「活動総括は既に報告された」と理解するのは自然であるが、中国語に訳す際には受け身を用いない。この文脈では、ミクロ的な視点、即ち当事者の立場から見ると、当事者は確かに部下から報告を受ける「受け手」の立場にいるが、中国語に訳される場合、ミクロ的な視点よりマクロ的な視点、即ち客観的(中立的)な視点から主観性を超越してその行為自体について述べるのが一般的¹³⁾である。そのため、このような客観的な視点から、ある出来事やしきたりを叙述する「(ヲ格名詞)を受ける」構文を中国語に訳す場合、中国語の受け身表現ではなく、文脈により、「收到」「上报」など、当事者が行う具体的な行動を表す動詞に訳す方が自然である。そのため、「(ヲ格名詞)を受ける」構文の中国語訳においては、客観的な視点からある出来事やしきたりを叙述する文脈であれば、受け身表現ではなく、具体的な状況に応じた当事者の行為を表す表現に訳されることが適切である。

(36) 定期的に健康診断を受ける。／定期接受体检。

(37) 国内事業者が適格請求書発行事業者の登録を受けようとする場合の手続きです。／这是国内运营商申请注册合格发票的手续。

(38) あなたの要請を喜んで受け入れます。／我很乐意接受你的那份请求。

例(36)の「診断」の場合、「診断される」とも言えるが、中国語に訳す際には受け身の

13) 渡邊(1996)は談話展開における視点の特徴から母語別による細かい観察を行ったが、それによると、中国語話者の母語の注視点は登場人物の間を移動する「移動注視点」の傾向が強く、視点は「中立視点」の傾向が強いという主張が見られる。また、常(2005)はある出来事を描写する際に、日本語において、常に誰か寄りの視点を取るのに対し、中国語においては、「中立視点」を取ると考えられると指摘した。

形は用いない。日本語の文脈では、当事者は「医者」に診断される受け手の立場にいる「患者」である。しかし、中国語に訳される場合、「患者」という当事者の身分に拘らず、当事者の行為に対して主観性や決定権があるか否か、つまり、当事者が自分自身の行為をコントロールできるか否かに焦点が当てられることになる。例(36)の場合、当事者は受け手の立場にいる「患者」であるが、診断を受けるか否かについての主導権があり、自分自身の行為をコントロールすることができる。このように、当事者が自分自身の行為をコントロールできることを表す「(ヲ格名詞)を受ける」構文が中国語に訳される際には、受け身表現ではなく、“接受”のような当事者の主観性や主導権を持つ行為を表す表現を用いるのが適切である。例(37)、例(38)の「登録」「要請」の「(ヲ格名詞)を受ける」構文も当事者が自分でコントロールできる行為を表すため、中国語では受け身でなく「受ける」を当事者の主観性や主導権を持つ行為を表す表現が用いられた。そのため、「(ヲ格名詞)を受ける」構文の中国語訳においては、当事者が自分自身の行為をコントロールできることを表す文脈であれば、当事者の主観性や主導権を持つ行為を表す表現に訳されることが適切である。

おわりに

以上のように、「レル・ラレル」で使われる頻度が高い動名詞と共起する「受ける」は、中国語の受動表現に訳されることが多いという特徴が明らかになった。「影響を受ける」のような「(ヲ格名詞)を受ける」構文において、コントロールできない事柄を表すヲ格名詞と「受ける」の組み合わせでは、「受ける」が受動の文法機能を果たす機能動詞として認識されると同時に、中国語に訳される際には、動詞の前に前置詞“被”(给、叫、让、由、受等)を用いて動作の与え手を明示する場合もあれば、単に“被”(给、叫、让、由、受等)などを用いて受動文となる場合もある。これにより、受動表現に言い換えられる「受ける」と、中国語の受動表現に訳される「受ける」の間に共通点があることが明らかになった。

しかし、今回考察した「(ヲ格名詞)を受ける」構文では、「受ける」が果たす受け身の文法的機能と中国語の受け身表現には共通点があるものの、対応できない場合もあることが分かった。「適用を受ける」のような「(ヲ格名詞)を受ける」構文において、文脈が利益を得る意味を表す場合、中国語では受け身表現ではなく、肯定的な事物を獲得することを表す表現に訳される。また、「報告を受ける」のような、客観的な視点からある出来事や習慣を叙述する「(ヲ格名詞)を受ける」構文であれば、中国語では受け身表現ではなく、具体的な状況に応じた当事者の行為を表す表現に訳すのがふさわしい。さらに、「診断を受ける」のような、当事者が自分自身の行為をコントロールできることを表す「(ヲ格名詞)を受ける」構文であれば、当事者の主観性や決定権を持つ行為を表す表現に訳すことが適切である。

また、日本語の「受ける」が中国語の受け身表現に訳される頻度と、「受ける」と共起するヲ格名詞が「レル・ラレル」形として使われる頻度との関連性については、今後の研究課題とする。

参考文献

日本語文献

- (1) 奥田靖雄 (1983)「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」,『日本語文法・連語論(資料編)』: 21-149, むぎ書房
- (2) 影山太郎 (1993)『文法と語形成』, ひつじ書房
- (3) 河村静江 (2017)「日中同形語と授受動詞のコロケーションに関する誤用について」,『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』(17): 35-48
- (4) 朱薇娜 (2013)「機能動詞「受ける」のヲ格名詞に対する一考察——漢語動名詞を中心に」『日本語／日本語教育研究』(4): 75-91, ココ出版
- (5) 常立成 (2005)「授受表現に関する日中対照研究」, 湖南大学修士論文
- (6) 益岡隆志 (1991)『モダリティの文法』, くろしお出版
- (7) 村木新次郎 (1991)『日本語動詞の諸相』, ひつじ書房
- (8) 渡邊亜子 (1996)『中・上級日本語学習者の談話展開』, くろしお出版

中国語文献

- (1) 凌蓉 (2004)〈“受ける”与“受”对宾语限制的差异〉,《日语知识》(8): 22-23, 上海外国語大学
- (2) 屈哨兵 (2004)《现代汉语被动标记研究》华中师范大学

日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の意味や用い方の相違の考察

陳 功麟

要 旨

本論文は、日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の意味や用い方の相違について、とりわけ日本語と中国語における「完了」「完成」の意味や用い方の相違に着目し考察したものである。

第1節の「先行研究」に続き、第2節では、日本語と中国語における「完了」の意味や用い方の相違を考察するために、日本語の「完了」はどのような場合に用いられるか調査した。中国語の“完了”について、①“完”が補語として用いられる場合、②接続詞として用いられる場合、③感動詞として用いられる場合、という三つの場合に分け、特徴を考察した。さらに、日本語の「完了」と「完成」の使い分けについても考察した。

第3節では、日本語と中国語の「完成」の意味における僅かな差異について考察した。「仕事」と一緒に使われる場合、日本語で「完成した」とも言えるが、通常、話し言葉では「できた」を使用する頻度が高い。また、「検査」と一緒に使われる場合、日本語では「検査済み」「検査完了」とは言うが、「検査完成」とは言わないことから、中国語の“完成”と日本語の「完成」の相違点が窺え、日本語の「完成」は中国語の“完成”で対応できない場合が多く見られることがわかった。

はじめに

「完」は日中両国でともによく使用される漢字で、造語力に富んでいる漢字であると言える。本論文ではその「完」を伴う日本語と中国語における漢字同形語を中心に、例文調査を通して、日本語と中国語における相違点の由って来るところについて、共時的な視点から考察する。

現代の日本語では、「完」は何かが完全に終了したことを示す。例えば、「仕事が完了した」のように何か完全に終わった状態を表現するのに用いられるが、日本語の「完了」は中国語の“完了”と完全に同じ意味として用いられるのか、また、日本語の「完了」は日本語の「完成」と用い方においてどのような相違があるのかを明らかにすることを本研究の課題とする。

以上のように本論文では、日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の意味や用い方の相違について、とりわけ日本語と中国語における「完了」「完成」の意味や用い方の相違について考察する。『BCCコーパス』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（中納言）及び『Weblio中国語例文』を利用して例文を調査し、日本語と中国語における「完

を伴う漢字同形語の意味や用い方の相違を究明することを目的とする。

1. 先行研究

1.1 日中同形語の定義に関する先行研究

はじめに、先行研究における日中同形語の定義について取り上げる。

竹田 (2005) は「漢字の構造」を使って、日中同形語を以下のように定義している。

日本語と中国語で漢字の構造が同一である単語のことを「日中同形語」と呼ぶ。
中国語では“中日同形词”と呼ばれている。

(竹田, 2005: 335)

また、何宝年 (2012) は、中日同形語を次のように定義する。

中日同形語とは、音訓の読み方・文字数・借用関係を問わず、中日両国の文字改革によりもたらされた字体の相違があっても、漢字のもとが同じである、中国人の立場から見ると、中国語と日本語の間に存在している同形の漢字語である。

(何宝年, 2012: 63)

本稿は、竹田 (2005) と何宝年 (2012) の定義を援用し、中国語の“完了”と日本語の「完了」、中国語の“完成”と日本語の「完成」が日中同形語であると主張する。

1.2 「完」を伴う漢語表現に関する先行研究

次に、「完」を伴う表現について論じた先行研究を取り上げる。

張岩紅 (2006) は連語の観点から“V 过”と“V 完”の意味機能の相違について以下のように示した。

“V 完”①出来事の運動終了の局面

②全体量の運動終了の局面

“V 过”①出来事の経過終了の局面

②一部分量の経過終了の局面

③全体量の経過終了の局面

(張岩紅, 2006: 140)

上記の内容における「出来事」という用語について、張岩紅 (2006: 140) は「文中に数

量の現れない『動詞+客体』の関係である」とし、また「全体量」と「部分量」について、「文中に数量の現れる『動詞+客体』の関係である」と説明している。しかし、「運動終了」と「経過終了」という二つの表現の違いが何であるかについて、張岩紅(2006)には具体的な分析が見当たらないため、“V过”と“V完”の意味機能を十分に解明したとは言い難い。

「完」を伴う漢語表現の重要性を言及した先行研究において、その意味や用い方の相違について論じているものは少ない。そのうえ、なぜ日中両言語における特有の漢語表現が存在するのか、その原因に関しても触れられていない。

本研究は以上のような先行研究で残された課題に取り組むこととする。

2. 日本語の「完了」と中国語の“完了”における意味や用い方の相違

本節では、日本語と中国語の漢字同形語の「完了」の主たる相違について論じる。『日本国語大辞典 第二版』において、「完了」は「すっかり終わること。また、終えること」と解釈されている。また、中国語の“完了”は、補語として用いられる“完了”(wán le)と、名詞として用いられる“完了”(wán liǎo)があり、名詞としての“完了”(wán liǎo)は、『现代汉语词典』(第7版)の解釈では“(事情)完结, 结束”と記されている。

辞書の解釈から分かるように、日本語の「完了」と中国語の“完了”(wán liǎo)はどちらも「物事が完全に終わること。また、完全に終えること」を表している。しかし、辞書の解釈が共通しているとしても、この二つの同形語がすべて置き換えられるとは限らない。その置き換えられない場合における意味の相違を明らかにすることを本研究の焦点とする。

2.1 日本語の「完了」の用い方及び中国語訳の特徴

日本語の「完了」は、主に動詞として使われ、ある行為や状態が終了し、完了したことを表現するために使われる言葉である。次に例文を挙げて¹⁾、日本語の「完了」の4つの用い方を分析する。

①準備、作業、工事やプロジェクトの完了の場合

- (1) 本日やるべき作業が、すべて完了した。／今天要做的所有工作都已经完成了。
- (2) 頼まれた作業がすべて完了したので、電話で連絡をした。／当所有要求的工作完成后，我通过电话联系了他们。
- (3) 開店するのに必要な準備が完了した。／开店必要的准备工作已经完成。

1) 例文(1)から(46)において、例文の前半が『BCCコーパス』『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『Weblio中国語例文』から収集した原文、後半が訳文である。尚、訳文作成は筆者が行った。

先述の例文(1)から(3)のように、作業や準備などが完全に終わったときのみ「完了」を使うことができる。そのため、まだやるべきことが残っているのにもかかわらず一時的に作業を中断する際には、「完了」という言葉は用いられない。また、「完了」は、過去に行われた行為が完了したことを強調するために使われる。

次に、「完了」は、工事や検査が終了したことを表現する際によく使用される。

(4) 今月末までに、建設工事を完了させなくてはいけない。／施工工作必須在本月底之前完成。

(5) 改修は2月13日に完了する予定です。／装修预计于2月13日完成。

(6) その検査は既に完了している。／那个检查已经做完了。

例文(4)から(6)では、ある仕事やプロジェクトが最終的な終わりを迎え、目標が達成された状態を示す。これは一連の活動や作業が終了し、その成果が得られたことを意味する。中国語では、“完成”“做完”と訳すことができる。

また、「準備完了」「作業完了」のほか、「検査完了／完了検査」「工事完了」「登録完了」「改装完了」「配送完了」「契約完了」「入荷完了」「接種完了」「撤収完了」「確認完了」のように、4字熟語としてもよく用いられ、これらは使用頻度が高い。中国語ではこの場合、“完了”は使わず、“好了”“做好了”“完成了”“结束了”など、文脈によって異なる表現で対応するという特徴が見られる。

②手続きや手順の終了の場合

(7) 申し込み手続きが完了したら、ご連絡差し上げます。／申请手续办完后，我们会与您联系。

(8) 登録手続きが完了したら、利用が始められます。／注册手续办完后，您可以开始使用了。

例文(7)、(8)のように、書類の提出や申し込み手続き、契約手続きなどが完了したことを示す場合にも、「完了」という表現が使われる。中国語訳“办完”から分かるように、この場合、「動詞+完」という動詞補語構造を用いて対応している、という特徴が窺える。

日本語の「完了」はいかなる場合においても用いられるとは限らない。「授業が完了」「会議が完了」などというようには使わない。この場合は「終了」が適切である。

2.2 中国語の“完了”の使い方及びその日本語訳の特徴

中国語において、“他这个人完了”のように熟語として用いられる場合、この“完了”は

固定した表現として用いられるが、“他功课做完了”“他写完”の“完了”は固定した表現とは言えない。前者の用い方は中国語において少なく、日本語にどのように訳すかは研究課題の一つである。

①中国語の“完了”における動作名詞+“完了”の場合

(9) 等考试完了我去看你。／試験が終わったらまた会いましょう。

(10) 他把机电专业的所有课程都自修完了。／彼は機械と電気専攻のすべての課程を独学で修了した。

例文(9)、(10)から分かるように、中国語では“完了”と使う場合でも、日本語では「完了」を用いない。日本語では「終わった」や「修了」と訳される。“吃完了”“考完了”“看完了”のように「一字動詞+完」は動詞補語構造と見なしてよさそうだが、“考试完了”“自修完了”は「動詞+完」という動詞補語構造ではなくて、「名詞+動詞」構造として解釈すべきだからである。次の例も「名詞+動詞」構造である。

(11) 等此事完了，我再找你细说。／この件が終わったら、詳しく話します。

上記の例の“事完了”は明らかに「名詞+動詞」構造である。“完”は補語の成分として用いられるだけでなく、“完了”という独立動詞としても用いられることが分かる。

(12) 项目已经完了。／プロジェクトは既に完了した。

(13) 选举已经完了。／選挙は既に終了した。

例文(12)、(13)は明らかに「独立動詞」である。特定の仕事やプロジェクトが予定通りに終了し、目標が達成された状態を指す。「完了した」「終了」と訳することが多い。

(14) 图画的修改已经完了，请您确认。／画面の修正が完了したので確認をお願いします。

例文(14)の“修改”は名詞で、“修改已经完了”は「名詞+動詞」構造と見なす。ただし、上記の例の場合、“图画已经修改完了，请您确认”とも言える。この場合、主語は“修改”となる。

②接続詞として用いられる場合

- (15) 下了班先接孩子，完了还得买菜。／仕事が終わったら、まず子供たちを迎えに行き、それから食料品を買わなければなりません。
- (16) 有三排楼房，最前面一排是初中部的教室，然后完了是我们高中部的教室，最后一排是教师办公室。／3つの列の建物があり、一番前の列には中学部の教室があり、それに続いて高校部の教室があり、最後の列には教員のオフィスがある。

例文(15)、(16)のように、中国語の“完了”(wán le)は日本語に訳される際、「そして」、「それから」、「それに」で対応するが、主に話し言葉で使われる。この場合、日本語の「完了する」では対応できない。つまり日本語の「完了する」には見られない用法である。

③感動詞として用いられる場合

- (17) 你这人完了。／あなたはもう終わりだ。

例文(17)のように、“完了”は「理解できない事柄が多いため失望した、絶望した」ことを表す際に用いられる。相手が非常に困難な状況に陥ったこと、あるいは何か大きな問題が発生したことを表す場合に使われる。

- (18) 完了完了，这下彻底完了。／しまった、これで完全に終わった。

また、例文(18)が示すように、“完了”は失敗した際、「まずい結果となったこと」を表す。“完了完了”のように重ねて用いられることが多い。“彻底”は「完全に」と訳される。文全体では、非常に深刻で絶望的な状況を表し、「しまった」「終わった」と訳することができる。

2.3 日本語の「完了」と「完成」の使い分け

「完了」と「完成」は中国語に訳すと、どちらも同じく“完成”になることがある。「完了」と「完成」の使い分けに関しては、日本語学習者の関心事となっている。

本項では日本語の漢字類義語「完了」と「完成」の意味的相違について考察する。

- (19) 私たちは既に荷物の梱包は完了しています。／我们已经打包完了货物。

例文(19)における「完了」は「作業が終わること」「物事の最終的な状態」を指し、こ

の場合の「完了」は「完成」には置き換えられない。「完成」は「作品の完成」のように作品、製品工事、プロジェクト、任務などの場合に「成し遂げる」という状態を表す場合によく用いられる。下記の例がそれである。

(20) この工事は大体完成した。／这项工程基本上完工了。

(21) 完成した製品を行き先別に仕分けし出荷します。／把完成的产品送货地分类后发货。

(22) 我々の任務は完成した。／我们的任务完成了。

(23) 我々の任務は完了した。／我们的任务完成了。

「完了」は主に動詞として使用される一方、「完成」は主に名詞として使われることが多いが、「完成した」のように、物事が作品のように最終的な形に仕上がった状態、物理的な完成や仕上がりの状態を指す場合には、動詞としても用いられる。

「完成した製品」における「完成」も「完了」には置き換えられない。中国語の場合、“製品”“完工”などで対応することが多い。一方、「工事は大体完成した」「工事完了」のように、「完成」と「完了」のどちらとも用いられる場合がある。前者は出来上がった状態を表し、後者は終了したことにポイントが置かれる、という両者の相違が窺える。

3. 日本語の「完成」と中国語の“完成”における意味や用い方の相違

本節では、日本語と中国語における「完成」の意味における細かな相違について考察する。日本語の「完成」と中国語の“完成”は漢字同形語であるが、使用範囲や使用頻度が異なっている面がある。本節では、例文調査を通して、日本語の「完成」と中国語の“完成”の用い方の相違の一端を明らかにすることを目的とする。

3.1 日本語の「完成」と中国語の“完成”の共通的な用い方

はじめに日本語の「完成」と中国語の“完成”の共通点について考察する。まず下記の中国語の“完成”の例を考える。

(24) 商品的改良版完成了。／商品の改良版が完成しました。

(25) 我们正在积蓄力量，去完成更艰巨的任务。／我々は力を蓄えて、より困難な任務を完成させようとしている。

上記の例における中国語の“完成”は、「ある物事やプロジェクトが終了した」という状態を指し、日本語の「完成」も同様の意味を持つ。この場合、両者は漢字同形語の「完成」

でほぼ対応することができる。その他の例として、「完成日」(完成的日子)、「完成品」(完成品)、「完成しました」(完成了)、「ほぼ完成する」(大体完成)、「計画は完成できない」(计划完成不了)、「3日以内に完成する」(限三天完成)、「完成したら送ります」(完成后发送)、「5年で完成するでしょう」(五年可以完成吧)、「資料が完成しました」(完成了这个资料)のように、中国語でも“完成”で対応できる例が多くあり、これらは共通的な用法と見られる。

下記の例は中国語の“完成”を用いている。日本語の「完成」の使い方と共通するか否か、また中国語訳の特徴は何かについて考察する。

(26) 我们提前一个月完成了工作。／我々は1か月繰り上げて仕事を完成した。

例文(26)は完全に出来上がったという意味を示し、日本語の「完成」で対応でき、共通の用法と見られる。「完成した製品」(完成的产品)、「このプロジェクトはついに完成した」(这个项目终于完成了)といった例においても、日本語では「完成させる」や「完成した」と訳す。

ただし、日本語の「完成」はすべて中国語の“完成”に対応するとは限らない。「新しいビルが完成しました」(新大楼竣工)では、中国語で“竣工”が使われる。これに関しては次項で詳しく述べる。

3.2 日本語の「完成」と中国語の“完成”の相違

日本語の「完成」は一部の例を除き、ほぼ中国語の“完成”で対応できる。

これに対して中国語の“完成”は幅広い意味を持つため、日本語の「完成」では対応できない場合が多い。下記の例を示す。

(27) 工作终于完成了。／仕事がやっとできた。

(28) 检查完成。／検査済み。検査完了。

例文(27)と(28)における中国語の“完成”は日本語の「済む」「できた」で対応している。「仕事」の場合、「請負契約とは、請負人が、仕事の完成を約束し、注文者が仕事の結果に対して請負代金を支払うことを約束する契約です(民法632条)」のように、日本語で「完成した」とも言えるが、通常、話し言葉では「できた」を使用する頻度のほうが高い。「検査」の場合、日本語では「検査済み」「検査完了」とは言うが、「検査完成」とは言わない。

日本語の「完成」は、「任務完成」「ビル完成」「完成工事検査済み」「未完成のシナリオ」「完成車」「道路工事完成図」「完成品」「修理完成」「論文完成」のように用いられること

が多い。一部は中国語の“完成”で対応できるが、一部は対応できない。そこから中国語の“完成”と日本語の「完成」の相違点が窺える。

(29) 一定要完成这项工作。／この仕事は絶対にやり遂げる。

(30) 终于完成了一份工作。／やっと一仕事終えた。

前述の通り、「仕事」の場合、日本語でも「完成」を用いることが可能であるが、(29)、(30)の例文のような場合、通常、「やり遂げる」「終えた」で対応する。

(31) 到这里麻醉完成了。／これで麻醉は終了です。

例文(31)の“完成”は日本語で「完成」とは言わない。「終了」「終わり」などで対応する。

以上のように、日本語の「完成」は中国語の“完成”で対応できない場合も多く見られる。筆者は例文調査、分析を行い、中国語の“完成”で対応できないケースを次の通りにまとめた。

①完成披露

(32) 新しい公共施設の完成披露式が、市役所前広場で開催されました。／新的公共设施竣工庆典在市政府前广场隆重举行。

(33) 大規模な工事プロジェクトの完成披露パーティーが、地元住民と一緒に盛大に行われました。／大型工程项目竣工庆祝派对在当地居民陪同下隆重举行。

(34) 人気ブランドの新商品完成披露会が、都内の百貨店で開催され、多くのファンが訪れました。／知名品牌新品发布会在都市百货店举办，众多粉丝前来参与。

(35) 有名なアーティストの新作アート作品の完成披露展が、美術館で開催中です。／著名艺术家新作品发布会，正在美术馆展出。

上記の例のように、日本語の「完成披露」は、主に建築物やプロジェクトなどが完成したことを公に発表・披露するためのセレモニーやイベントを指す。これは完成した物事の成果を広く一般に知らせ、喜びを共有する機会として行われる。中国語の場合、“竣工庆典”、“发布会”と訳することができる。この場合、中国語では“完成”とは言わない。

②完成度

(36) この新製品の完成度は非常に高く、市場での競争力が強いです。／这款新产品的

品質非常好，在市场上具有强大的竞争力。

(37) プロジェクトの完成度を確認するために、週次の進捗レポートが提出されます。

／为了确认项目的进度，每周都会提交进度报告。

(38) この絵画の完成度は驚くべきものであり、芸術家の技術が光ります。／这幅画的高品质令人惊叹，艺术家的技巧得到了很好的展现。

上記の「完成度」は製品、プロジェクト、アート作品などがどれだけ高い品質で仕上がっているかを評価するために使用される。完璧な仕上がりや高い水準の品質があれば、「完成度が高い」と言う。「完成度」は主観的な要素が含まれることがあり、人によって評価が異なることがある。それにも関わらず、一般的には物事がどれだけ完璧であるかを示す重要な概念となっている。中国語では、「质量好」と訳す。この場合、中国語では“完成度”とは言わない。

③完成図

(39) 建築プロジェクトの完成図が最終的に完成し、関係者に提出されました。／建筑项目的竣工图最终完成，并提交给了相关人员。

(40) 新製品の完成図がデザインチームによって詳細に作成され、製造段階に進む準備が整いました。／新产品的设计图由设计团队详细制作，已准备好进入制造阶段。

(41) 庭園の完成図が完成し、今後の植栽やレイアウトの指針となります。／庭园的设计图完成，将成为今后植栽和布局的指导。

(42) 工業製品の完成図が技術仕様書として作成され、製造工程において参照されます。／工业产品的设计图作为技术规格书制作，并在制造过程中被参考。

日本語の「完成図」とはプロジェクトや製品、建築物、デザインなどが完成した状態を詳細に示した図面や設計書のことを指す。主に工業製品の製造、建築プロジェクト、庭園やランドスケープデザイン、製品デザインなどの分野で使用され、中国語には見られない表現であり、中国語では通常“竣工图”“设计图”と訳す。

④完成品

次に日本語の「完成品」の使い方及び中国語の対応語を考える。

(43) 工場から出てきた完成品は、高い品質と精密な仕上げが特徴です。／从工厂出来的成品以高质量和精密的加工而著称。

(44) デザイナーはクライアントに提供する前に、新しい商品の完成品を検討しました。

／设计师在向客户展示之前审查了新产品的成品。

(45) 工場の生産ラインから出てくる完成品は、衛生的な環境で製造されています。／
从工厂生产线出来的成品在卫生环境下制造。

(46) 画家が数ヶ月かけて制作した絵画が、ついに完成品として展示されました。／画
家花了几个月的时间创作的画作终于作为成品展出。

日本語の「完成品」は製造工程や制作プロセスが完了し、最終的な形に仕上がった製品や商品のことを指し、製造業や商品販売、製品開発、芸術など様々な分野で用いられ、製品や作品の最終的な形態を示す重要な概念となっている。中国語では“成品”で対応する場合が多い。

おわりに

本稿では、日本語と中国語における「完」を伴う漢字同形語の意味や使い方の相違を考察した。

まず、「完了」に関して、日本語と中国語における「完了」の意味や使い方の相違を中心に考察した。その結果、①準備、作業、工事やプロジェクトの完了の場合によく用いられ、中国語では、“完成”“做完”と訳することができる。②手続きや手順の終了の場合、中国語訳“办完”から分かるように、「動詞＋完」という動詞補語構造を用いて対応する、という特徴が窺えた。

続いて、中国語の“完了”の場合、次の三つの特徴が窺えた。①“完”は補語として用いられる場合、日本語では「完了」を用いず、「終わった」や「修了」と訳される。また、“吃完了”“考完了”“看完了”のように「一字動詞＋完」は動詞補語構造と見なしてよいが、“考试完了”“自修完了”は「動詞＋完」という動詞補語構造ではなく、「名詞＋動詞」構造として解釈すべきである。そして“完”は補語の成分として用いられるだけでなく、“完了”という独立動詞としても用いられる。②接続詞として用いられる場合、中国語の“完了”(wán le) は日本語に訳される際、「そして」、「それから」、「それに」で対応し、主に話し言葉で使われる。③感動詞として用いられる場合、“完了”は「理解できない事柄が多いため失望した、絶望した」ことを表す際に用いられ、「しまった」「終わった」と訳することができる。

日本語の「完了」と「完成」の使い分けについても考察した。「完了」は「作業が終わること」「物事の最終的な状態」を指し、この場合の「完了」は「完成」には置き換えられない。また、「完了」は主に動詞として使用され、「完成」は主に名詞として使われることが多いが、「完成した製品」の場合の「完成」は「完了」には置き換えられない。そして、「工事は大体完成した」「工事完了」のように、「完成」と「完了」とどちらとも用いられる場合

があり、前者は出来上がった状態を表し、後者は終了したことにポイントが置かれる、という両者の相違が窺えた。

最後に、日中同形語の「完成」について日本語と中国語における「完成」の意味の僅少な相違について考察した。日本語の「完成」は一部の例を除き、ほぼ中国語の“完成”で対応できるが、これに対して中国語の“完成”は幅広い意味を持つため、日本語の「完成」では対応できない場合が多い。そこから中国語の“完成”と日本語の「完成」の相違点が窺えた。そして、日本語の「完成」は中国語の“完成”で対応できない場合も多く見られることが明らかとなった。

参考文献

日本語文献

北原保雄. 2007. 『日本国語大辞典 第二版』. 小学館.

竹田治美. 2005. 「『日中同形類義語』について」. 『人間文化研究科学年報』. (20): 335-342.

張岩紅. 2006. 「結果補語“～完”と“～过”とについて——“吃完、吃过”“看完、看过”を例として——」. 中国言語対照学会編. 『中国語の補語』. 白帝社. 123-143.

中国語文献

何宝年. 2012. 《中日同形词研究》. 东南大学出版社. 63.

中国社会科学院语言研究所词典编辑室. 2016. 《现代汉语词典（第7版）》. 商务印书馆.

日本語例文のコーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（中納言）』（http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/ 2023年10月2日確認）

中国語例文のコーパス

『北京语言大学 BCC 现代汉语语料库（BCC コーパス）』（<http://bcc.blcu.edu.cn/> 2023年10月8日確認）

『Weblio 中国語例文』（<https://cjjc.weblio.jp/sentence/> 2023年11月1日確認）

「好意感情」を表す中国語の“喜欢”に対応する 日本語表現に関わる諸問題をめぐって

日本語の「好き」を中心に

田 暁潔

要 旨

「好意感情」を表す中国語の“喜欢”に対応する日本語表現として、「好き」がよく用いられている。

本稿は、『白夜行』の本文及び各辞書の解釈を中心に、中国語の“喜欢”に訳される日本語表現を抽出し、日本語における「好き」の意味や用法、並びに使用実態について考察するものである。その結果、「好き+助動詞」と「好きな+名詞」の使用頻度が比較的高いことがわかった。更に、「好きな+名詞」といったパターンに焦点を絞ると、「好き」と共起する名詞の分類と中国語訳の特徴が明らかになった。

1. はじめに

良い印象や好感などの「好意感情」を表す際、中国語では“喜欢”、日本語では「好き」がよく用いられている¹⁾。中国語の“喜欢”は動詞として、①喜ぶ、うれしい、②人や事物を好む、といった二つの意味がある²⁾。

次の例(1)³⁾では「喜欢+名詞」という形で、例(2)では「喜欢+動詞／形容詞」という形で表現されており、日本語訳では、いずれも「好き」である。

例(1)

【原文】他喜欢数学，我喜欢文学。（『中国語文法用例辞典』）

【訳文】彼は数学が好きで、私は文学が好きだ。（筆者訳）

例(2)

【原文】他这个人就喜欢热闹。（『中国語文法用例辞典』）

【訳文】彼って男はにぎやかなことが何より好きなのだ。（筆者訳）

また、例(3)のように、“喜欢”は兼語として一緒に使え、兼語に次ぐ動詞や形容詞は“喜欢”の原因を表す。例(4)の中国語の“喜欢”に対応する日本語は「好き」ではなく、「うれ

1) 消費者庁(2019)、小竹(2012)、謝(2018)。

2) 呂叔湘・牛島徳次・菱沼透。2010『中国語文法用例辞典』。東方書店。

3) 本文の例(1)～(5)の例文は、『中国語文法用例辞典』から収集した。

しい」「喜ぶ」である。ただし、「うれしい」を表す中国語の“喜欢”の用法は、現代中国語ではあまり使われていない。例(5)の“喜欢上”は「興味を覚え始める」という意味を表す。

例(3)

【原文】我喜欢这篇文章写得简练、生动。(『中国語文法用例辞典』)

【訳文】この文は簡潔で、いきいきしているので好きだ。(筆者訳)

例(4)

【原文】你找到了失散多年的亲人，我们都替你喜欢。(『中国語文法用例辞典』)

【訳文】君が長年離ればなれになっていた肉親が見つかって、私たちは本当にうれし
い限りだ。(筆者訳)

例(5)

【原文】你是搞工程的，怎么也喜欢上文学了？(『中国語文法用例辞典』)

【訳文】君は技術系の人間なのに、何故文学にも興味など持ち始めたのですか。(筆者訳)

例(1)から(5)を見ると、中国語の“喜欢”に対応する日本語訳は「好き」のみならず、それ以外にも対応できる語が存在すると考えられる。

また、『BCCコーパス』⁴⁾による「喜欢N」の検索の結果では⁵⁾、“喜欢”の使用件数は、文学作品の例が38,111件、新聞の例が45,000件、会話の例が729,312件あった。このデータから、会話においては高頻度で用いられることがわかる。“喜欢”は主に話し言葉として使用され、文学作品や新聞と比べて使用頻度は高いことがわかった。

次に、本研究の分析方法について説明する。分析方法は以下の通りである。まず全文検索システム『ひまわり』⁶⁾を用いて、小説『白夜行』⁷⁾の本文における中国語の“喜欢”に訳される日本語の表現を抽出する。また、中国語の“喜欢”に対応する日本語表現の全体像を把握するため、さらに辞書で調べて補足する。そのうち、「好きな+名詞」というパターンに焦点を絞り、『分類語彙表』⁸⁾を用いて共起する名詞グループを調査し、共起する名詞の分類を行う。

4) 北京语言大学 BCC 现代汉语语料库是北京語言大学が運営、公開している中国語を対象としたコーパスで、計 150 億字のデータが収録されているコーパスである。http://bcc.blcu.edu.cn/

5) 2023 年 10 月 20 日、『BCCコーパス』で“喜欢”を検索した。

6) 全文検索システム『ひまわり』は言語研究用に設計された全文検索システムである。https://csd.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?himawari

7) 東野圭吾. 1999. 『白夜行』. 集英社.

翻訳本は劉姿君訳. 2013. 『白夜行』. 南海出版社. を使用した。

8) 『分類語彙表』とは、「語を意味によって分類・整理したシソーラス(類義語集)」である。本稿で使用したのはデータベース版であり、書籍版の『分類語彙表——増補改訂版』(pdf)の元となったデータを加工したものである。https://clrd.ninjal.ac.jp/goihyo.html

2. 中国語の“喜欢”に対応する日本語表現の意味や用法

本節ではまず、小説『白夜行』における中国語の“喜欢”に訳されている日本語表現を抽出した。その結果を表1に示す。

表1 『白夜行』における“喜欢”に対応する日本語

中国語	日本語	用例数
喜欢	好き	46
	気に入る	36
	好む	6
	好み	4
	気に食わない	4
	惚れる	3
	好きになる	2
	(どれ)でもいい	1
	御趣味だった	1
	ああいう人が～のタイプ	1
	無邪気で甘えん坊	1
	～がいい(ええ)	1
	憧れる	1

表1に示したように、中国語の“喜欢”は日本語の「好き」に訳された例が最も多く、計46例ある。次の例(6)と例(7)⁹⁾は、日本語の「好き」が持つ「好くこと、心が惹きつけられること」という意味を表している。

例(6)

【原文】雄一はカメラを構え直し、唐沢雪穂が近づいてくるのを待ち受けた。もう少しアップで撮りたかった。彼は彼女の鼻が好きだった。(『白夜行』)

【訳文】雄一调整好相机，等待唐泽雪穗接近。他想拍更贴近的特写镜头。他喜欢她的鼻子。(刘姿君訳『白夜行』)

例(7)

【原文】邦楽は好きではないのかもしれない。(『白夜行』)

【訳文】可能是不喜欢日本的流行乐。(刘姿君訳『白夜行』)

また、2番目に多い表現は「気に入る」で、計36例あった。3番目は「好む」で計6例あった。それ以外の例として、4番目に多いのは「気に食わない」と「好み」で、計4例しか確認できなかった。しかし、「気に食わない」は「不満で、気に入らない」という意味があり、その場合、中国語の“不喜欢；不中意”に訳されることもある。

9) 例(6)と(7)は、『白夜行』から収集した。

表1に示すように『白夜行』における中国語の“喜欢”を含む日本語表現を全て抽出した結果、「気に食わない」を確認することができた。そして、「惚れる」は5番目に多く3例あり、「好きになる」は6番目で2例であった。その他は全て、1例ずつのみであった。これらの表現は「好き」に関連する語に直訳されたのではなく、意識として中国語の“喜欢”に訳されたと思われる。

次に、複数の辞書¹⁰⁾を使用し、中国語の“喜欢”に対応する日本語表現をさらに抽出し、表2にまとめた。

表2 各辞書における“喜欢”に対応する日本語

中国語	日本語
喜欢	喜ぶ
	愛好する
	うれしがる／うれしい
	愉快
	楽しい

表2が示すように、各辞書における中国語の“喜欢”に対応する語は5つにまとめられる。しかし、「喜ぶ」、「うれしい」、「愉快」、「楽しい」は「好き」とは異なる意味を持っており、中国語の“开心、快乐、高兴”などの喜ばしい気持ちを表す語に訳す場合が多い。複数の日本語辞書¹¹⁾において、「愉快」に関しては「好き」と表す用例は確認できなかったが、NINJAL-LWP for TWC¹²⁾で「愉快」を調べた結果、中国語“喜欢”に対応している用例は少なくなかった。また、「うれしがる」は日本語の「好ましい」という意味を含んでおり、中国語の“令人喜欢”に訳することができる。

以上のように、小説『白夜行』における抽出結果から、中国語の“喜欢”に対応する日本語表現として、「好き」と「気に入る」がよく用いられることがわかった。「好む」、「好み」が用いられた例も確認できたが、使用頻度としてそれほど高くない。「惚れる」、「憧れる」などは「好感を抱く」という意味を表し、小説での文脈によって“喜欢”に訳されるが、実際には“看中”“憧憬”と訳される場合が多い。

10) 北京・商務表書館・小学館編. 2003. 『中日辞典【第二版】』. 講談社.
鎌田正・山寅太郎. 2005. 『新漢語林【第二版】』. 大修館書店.
鎌田正・山寅太郎. 2001. 『大修館漢語新辞典』大修館書店.
愛知大学中日大辞典編集部編. 1999. 『中日大辞典【増訂第二版】』. 大修館.
王萍等. 1991. 『外研社・現代日中中日辞典』. 外语教学与研究出版社.
吉林大学汉日词典编辑部编. 1999. 『汉日辞典【修订版】』. 吉林教育出版社.

11) 北原保雄. 2003. 『日本国語大辞典【第二版】』. 小学館.
北原保雄. 2011. 『明鏡国語辞典【第二版】』. 大修館書店.
金田一京助. 1999. 『新明解国語辞典【第五版】』. 三省堂.
新村出. 1998. 『広辞苑【第五版】』. 岩波書店.
松村明. 1995. 『大辞林』. 三省堂.

12) NINJAL-LWP for TWC (NLT コーパスと称す) は、日本語のウェブサイトから収集して構築した約11億語の『筑波ウェブコーパス』(Tsukuba Web Corpus: TWC)である。https://tsukubawebcorpus.jp/search/

3. 日本語における「好き」の使用実態及びそれと共起する名詞の分類

3.1 日本語における「好き」の使用実態

NLT コーパスを利用して中国語の“喜欢”に対応する「好き」の使用実態を分析する。

表3 「好き」の共起パターン

共起パターン	件数	割合
「好き + 助動詞」	59,636	87.4%
「好きな + 名詞」	27,749	40.7%
「好きに…」	11,933	17.5%
「好き + 助詞」	11,500	16.8%
「好きに + 動詞」	9,717	14.2%
「……が好きだ」	4,991	7.3%
「……は好きだ」	899	1.3%
「……を好きだ」	552	0.8%

NLT コーパスで「好き」を検索した結果、計68,258件確認できた¹³⁾。「好き」の共起パターンにおいて使用頻度が多かった上位8位までをまとめた表を示す(表3)。表3が示す通り、使用頻度の1番高いパターンは「好き + 助動詞」で、計59,636件、全体の87.4%を占めている¹⁴⁾。2番目は「好きな + 名詞」で、計27,749件、全体の40.7%を占めている。

また、4番目に多く見られたパターンの「好き + 助詞」は計11,500件で、全体の16.8%を占めており、そのうち「好きに……」というパターンが最も多く、11,034件あった。そして、3番目に多かった「好きに……」と5番目に多かった「好きに + 動詞」は、それぞれ11,933件と9,717件あった。使用頻度の高かった3番目から5番目の組み合わせを分析したところ、「好きになる」というパターンが8,200件もあり、使用頻度が最も多いことを示唆している。

その他のパターンとして、「……が好きだ」(4,991件)、「……は好きだ」(899件)、「……を好きだ」(552件)なども確認できたが、全体を占める割合が比較的少なかったため、本稿では分析対象としない。次に、NLT コーパスで「好きな + 名詞」を検索した¹⁵⁾。「好き + 名詞」において使用件数が多かった上位10位までをまとめた表を示す(表4)。

13) このデータは、2023年8月22日のものである。

14) 「好き + 助動詞」の使用実態。(2023年8月22日の検索結果)

「好き + 助動詞」に当たる用例を以下に挙げる。

①【原文】私は田舎が好きだ。(「NLT コーパス」)／【訳文】我喜欢农村。(筆者訳)

②【原文】山が好きです。(「NLT コーパス」)／【訳文】我喜欢大山。(筆者訳)

③【原文】愛山君は文学が何処までも嫌ひなり、余は文学が何処までも好きなり。(「NLT コーパス」)／【訳文】爱山君对文学恨之入骨，而我对文学却爱之入骨。(筆者訳)

以上のように「好き + 助動詞」の使用頻度は、59,636件で9種類あった。そのうち「好きだ」は49,216件、「好きです」は10,378件、「好きなり」は22件確認できた。この3種類はいずれも中国語の“喜欢”に訳すことができる。他の6種類の中で、「好きます」は12件、「好きり」は3件、「好きある」は1件、「好きたい」は1件あった。この4種類は「好き」の意味はないので、中国語の“喜欢”に訳されないと思われる。「好きたり」は2件、「好きっす」は1件あり、「好き」の意味を持ち、中国語の“喜欢”に訳されると見られるが、その使用頻度は極めて少ない。

15) 2023年8月22日、NLT コーパスで「好きな + 名詞」を検索した。

表4 「好きな + 名詞」の使用件数一覧

「好きな + 名詞」	件数
「好きな人」	4,885
「好きなん」	3,787
「好きなの」	3,419
「好きなほう」	1,525
「好きなこと」	1,357
「好きなよう」	1,296
「好きなもの」	930
「好きなとき」	609
「好きな子」	331
「好きなところ」	261

本項のはじめで論じたように、「好きな + 名詞」というパターンの使用頻度は「好き」の共起パターンの全体の2位を占めており、計27,749件で1,640種類あった。そのうち、表4に示すように「好きな人」は4,885件で、使用件数が1番多かった。例として例(8)を挙げる¹⁶⁾。

例(8)

【原文】自分は詠唱が好きな人です。(『NLT コーパス』)

【訳文】我是一个喜欢吟诵的人。(筆者訳)

次に、「好きなん」は3,787件で、「好きなの」は3,419件あった。例(9)と例(10)がそれぞれの例である。

例(9)

【原文】私は事典類が好きなんです。(『NLT コーパス』)

【訳文】我喜欢百科全书。(筆者訳)

例(10)

【原文】その瞬間が好きなのだ。(『NLT コーパス』)

【訳文】我喜欢这些时刻。(筆者訳)

上記の例(9)と例(10)のように、「なん」と「なの」は話し言葉で多く用いられ、「なん」は「なの」の音便化した略式である。

また、「好きなほう」は1,525件あり、次の例(11)と例(12)の示す通りである。

16) 本文の例(8)～(18)の例文は、「NINJAL-LWP for TWC (NLT コーパス)」から収集した。

例(11)

【原文】他人の世話をするのが好きなほうですか。(『NLT コーパス』)

【訳文】你更喜欢照顾他人吗？(筆者訳)

例(12)

【原文】謎解きが好きな方にお勧め。(『NLT コーパス』)

【訳文】推荐给喜欢解谜的人。(筆者訳)

上記の「好きなほう」の例文を調べたところ、漢字で表記された「好きな方」を書いている例文が多く、例文(11)のように、ひらがなで表記された「好きなほう」の割合は少ないことがわかった。一方、「好きな方」の「方」の読み方は「ハウ」ではなく、例(12)のように、「カタ」だと思われる。中国語での訳し方は「ハウ」と「カタ」で異なる。「ハウ」は比較してまで強調したい人や事物などを指し、中国語の“更喜欢～”に訳される。「カタ」は人を表す連体修飾語を伴ってその人を指し、中国語訳は“喜欢～的(那位, 那个人)”である。

また、「好きなこと」は1,357件、「好きなよう」は1,296件、「好きなもの」は930件、「好きなとき」は609件、「好きな子」は331件、「好きなところ」は261件あった。以下に例を示す。

例(13)

【原文】また今は好きなことをしている。(『NLT コーパス』)

【訳文】我现在又开始做我喜欢做的事了。(筆者訳)

例(14)

【原文】お子様犬と遊ぶのが好きなようだ。(『NLT コーパス』)

【訳文】它似乎很喜欢和幼犬一起玩耍。(筆者訳)

例文(14)では、「よう」は話し手の物事に対する主観的な推測を表し、中国語の“好像喜欢～；似乎喜欢”に訳される。

例(15)

【原文】映画も好きなものを見ることが出来る。(『NLT コーパス』)

【訳文】您还可以观看自己喜欢的电影。(筆者訳)

例(16)

【原文】リビアの女性は好きな時に離婚することが出来る。(『NLT コーパス』)

【訳文】利比亚妇女可以随时离婚。(筆者訳)

例(17)

【原文】智耀は電車が好きな子でした。(『NLT コーパス』)

【訳文】智耀是个火车爱好者。(筆者訳)

例(18)

【原文】まず、権威、権限、権力が好きなところだ。(『NLT コーパス』)

【訳文】首先，这是一个喜欢权威、权力和权势的地方。(筆者訳)

上記の例文を分析すると、「好きな＋名詞」というパターンの中、「好きな」と共起する語は「人」、「ほう」、「こと」、「もの」、「子」、「ところ」などであり、「好きな」と併せ、中国語の“喜欢的(人、事、物、地方)”、あるいは“爱好者”に訳される。

以上の結果から、「好きなとき」を除き、それ以外の共起語は全て「好き」という意味を持ち、中国語の“喜欢”に対応することができる。それに対して「好きなとき」は「好き」という感情を含んでいないため、中国語の“喜欢”に訳されず、“随时”に訳される。

3.2 日本語の「好き」と共起する名詞の分類

本項では、「好きな＋名詞」を対象に、『分類語彙表』を用いて、「好き」と共起する1,640種類の名詞を分類してまとめる。

接尾語の「なん」、「なの」及び形式名詞の「もの」、「こと」、「ところ」の5種類を除いて、残りの1,635種類のうち、「／体／」類に属する名詞は1,469例、「／相／」類に属する名詞は27例、「／他／」類に属する名詞は3例あり、残りの138例は分類できなかった¹⁷⁾。

3.2.1 「／体／」類

「／体／」類に属する1,469例の名詞を部門及び中項目に基づき分類して、分析を行った。「／体／」類に属する名詞の部門は5つあり、以下の表3が示す通りである。

表5 「／体／」類に属する部門

部門				
主体	関係	自然	活動	生産物

上記の5つの部門の中項目をそれぞれ分類し、用例を分析した結果、以下のことがわかった。

1,469例の名詞のうち、「主体」は「人間、家族、仲間、成員、人物、公私、社会、機関」の中項目によって構成されている。「好き」は「／体／主体／間、家族、仲間、成員、人物、公私、社会、機関」に属する名詞と共起した場合、中国語の“喜欢”に訳される。

17) 『分類語彙表』において、言葉を①名詞の仲間－体の類 ②動詞の仲間－用の類 ③形容詞・形容動詞・副詞等の仲間－相の類 ④その他の仲間(接続詞・感動詞など)と分類している。分類は分類番号を用いて整理され、分類番号は広い概念から順番に「類」「部門」「中項目」「分類項目」を表す。

「関係」は「時間、空間、類、量、形、様相、事柄、作用、力、真偽、存在」の中項目によって構成されている。そのうち、「好き」は「時間」（中項目）での「時、時間」と共起した場合、中国語の“随时”に訳され、「量」、「力」に属する名詞と共起した場合、中国語の“合适的、适合的”に訳される。その他、「好き」は「空間、類、形、様相、事柄、作用、真偽、存在」に属する名詞と共起した場合、中国語の“喜欢”に訳することができる。

「自然」は「自然、植物、動物、身体、天地、物質」の中項目によって構成されており、「活動」は「心、芸術、言語、生活、事業、待遇、交わり、行為、経済」の中項目によって構成されている。「好き」はこの2種類に属する名詞と共起した場合、中国語の“喜欢”に訳される。

「生産物」は「食料、土地利用、道具、衣料、物品、資材、住居、機械」の中項目によって構成されており、「好き」は「食料」（中項目）での「調味料」に属する名詞と共起した場合、中国語の“适量的”に訳され、その他の中項目に属する名詞と共起した場合、中国語の“喜欢”に訳される。

3.2.2 「／相／」類

「／相／」類に属する27例の部門を分類した結果を表6で示す。

表6 「／相／」類に属する部門

部門		
関係	自然	活動

27例の名詞のうち、「関係」は「量、様相、時間、力、真偽、作用」の中項目によって構成されている。そのうち、「好き」は「量、時間、力」に属する名詞と共起した場合、中国語の“合适的、适合的”に訳され、「様相、作用、真偽」に属する名詞と共起した場合、中国語の“喜欢”に訳することができる。

3.2.3 「／他／」類

「／他／」類に属する3例の部門を分類した結果を表7で示す。

表7 「／他／」類に属する部門

部門
接続

「／他／」類に属する名詞の3例のうち、「接続」は「反対」と「累加」の中項目によって構成されており、この種類に属する接続詞と共起した場合、いずれも中国語の“喜欢”に訳される。

以上の結果から、「好き」と共起する名詞は主に「／体／」類に属することがわかった。「／相／」類に属する名詞の用例を調べたところ、形容動詞は名詞として用いられるため、「好き」と共起した場合は修飾されるが、使用頻度は高くない。「／他／」類に属する3例は名詞に属すべきであるが、文脈からは接続詞に近いので、「／他／」類に分類した。

4. おわりに

本研究は、中国語の“喜欢”とそれに対応する日本語表現の「好き」を研究対象とし、その意味や用法、及び使用実態について考察した。その結果、中国語における“喜欢”は動詞として、日本語の「好き、好む」を表す意味で頻繁に用いられているが、「うれしい、喜ぶ」などの喜ばしい気持ちを表す意味としては、比較的用いられていないことがわかった。そして、小説の対訳以外にも、複数の辞書を用いて中国語の“喜欢”に対応する日本語表現の更なる調査を行った。

続いて、コーパスを用いて「好き」の使用実態を分析し、日本語における「好き」と共起する名詞の分類及び中国語訳の特徴を明らかにした。そして、『分類語彙表』を用いて「好き」と共起する名詞を分類した結果、共起語として用いられる名詞の多くは「／体／」類に属していることがわかった。また、「／相／」、「／他／」、「／用／」類に属する名詞は多くないことが明らかになった。中国語訳はそれぞれの中項目により、“喜欢”“随时”“合适的，适合的”“适量的”の訳し方がある。しかしながら、それらの日本語の意味的特徴はまだ明らかにされていないため、今後は、より多くの中国語の“喜欢”に対応する日本語表現の共起語を分類し、それぞれの訳文の傾向とそれらの意味的特徴を考察したい。

参考文献

- 愛知大学中日大辞典編集部編. 1999. 『中日大辞典【増訂第二版】』. 大修館.
 相原茂. 2015. 『中国語類義語辞典』. 朝日出版社.
 鐘ヶ江信光. 1960. 『中国語辞典』. 大学書林.
 鎌田正・山寅太郎. 2001. 『大修館漢語新辞典』. 大修館書店.
 鎌田正・山寅太郎. 2005. 『新漢語林【第二版】』. 大修館書店.
 北原保雄. 2003. 『日本国語大辞典【第二版】』. 小学館.
 北原保雄. 2011. 『明鏡国語辞典【第二版】』. 大修館書店.
 金田一京助. 1999. 『新明解国語辞典【第五版】』. 三省堂.
 国立国語研究所. 2004. 『分類語彙表』. 大日本図書.
 小竹直子. 2012. 「好意感情を表す述語の意味分析——『好きだ』『気に入る』『いい』の違いに焦

- 点を当てて——」.『愛知産業大学留学生別科紀要』4: 14-26.
- 謝平. 2018. 「“喜欢”与“好き”」.『立命館法学 別冊「ことばとそのひろがり」』6: 281-302.
- 消費者庁. 2019. 「消費者契約法の一部を改正する法律」.(平成 30 年法律第 54 号).
- 新村出. 1998.『広辞苑【第五版】』. 岩波書店.
- 北京・商務表書館・小学館編. 2003.『中日辞典【第二版】』. 講談社.
- 松村明. 1995.『大辞林』. 三省堂.
- 呂叔湘・牛島徳次・菱沼透. 2010.『中国語文法用例辞典』. 東方書店.
- 吉林大学漢日词典编辑部編. 1999.《漢日辞典【修订版】》. 吉林教育出版社.
- 王萍等. 1991.《外研社・現代日中中日词典》. 外语教学与研究出版社.
- 俞彭年. 2003.《現代日中双解词典》. 上海外語教育出版社.

日中漢字同形語に関する研究の現状とその課題

研究文献レビューに基づいて

湯 皓祺

要 旨

本稿では、テキストマイニングの手法を用い、過去10年間の日中両国における漢字同形語の研究を客観的、体系的に集計・考察した。分析の結果、日中両国とも漢字同形語における「教育」、「比較対照」の研究を主要な課題としている。中国の論文¹⁾では漢字同形語の総合的な論述などにおいて、日本の論文²⁾よりも成果が多く、さらに研究が深まっている。日本の論文では実験、調査などの研究方法を通じて同形語の研究を行い、音声学の視点からの同形語の習得研究など、革新的な課題が多い。また、中国の論文ではマクロ的な研究が進んでいるのに対して、日本では実証調査的な方法論の研究が進んでおり、研究課題は多種多様である。

1. はじめに

日本語において、中国語とはほぼ同じ漢字表記を使用している語が多いことはよく指摘される。これは中国人が日本人とのコミュニケーションを行う際にメリットにもなればデメリットにもなっている。メリットとしては、漢字表記語の書き方や意味などの勉強を一々しなくても、母語である中国語における漢字知識を利用することで、理解できる単語が少なくないことである。一方、日本語の「手紙」が中国語で「トイレトペーパー」であるというように、母語の知識をそのまま使用すると大きな誤解が生じる可能性もある。そのため、外国語である日本語を使用する際、母語の漢字知識はどこまで通用するか、字形、書き順、意味や使用場面などそれぞれの異同をはっきり理解する必要がある。日中漢字同形語に関する研究の必要性が感じられ、1978年に文化庁により出版された『中国語と対応する漢語』³⁾をはじめ、日中両国で発表された同形語に関する研究は多く、研究課題も多岐にわたる。

本稿では、日中漢字同形語を研究対象とし、テキストマイニングの手法を用い、計量テキスト分析を行い、過去10年間の日中両国の漢字同形語の研究を体系的に分析し、研究における相違点を明らかにする。それによって漢字同形語に関する研究の現状とその方向性を検討し、新たな研究課題、さらに漢字同形語と他の分野との融合における可能

1) 本稿における「中国の論文」とは、中国で発表され、「中国知網 CNKI」に掲載されている論文である。

2) 本稿における「日本の論文」とは、日本で発表され、「CiNii」に掲載されている論文である。

3) 文化庁 (1978). 『中国語と対応する漢語』. 大蔵省印刷局.

性についても考える。

2. 先行研究及びその問題点

日中同形語に関する先行研究は胡泽华 (2012)、任川海 (2014)、李惠娟 (2019) などがある。

胡泽华 (2012) は両国における論文データベース (中国の論文: 中国知網⁴⁾、日本の論文: CiNii⁵⁾) で同形語に関する論文69本 (中国の論文は27本、日本の論文は42本) を調べ、研究内容によって、(1) ある語彙に対する研究、(2) 新漢語の中国語への輸入に対する研究、(3) 文法の視点から行われた研究、(4) ある分野の専門用語に対する研究、(5) 厳復の訳語に対する研究、(6) その他 (比較分析、語源など) という6種類に分けた。任川海 (2014) は中国で刊行されている日本語研究の学術誌である《日语学习与研究》⁶⁾ (1979～2013) に掲載された日中漢字同形語に関する論文31本を研究対象とし、(1) 日中漢字同形語の意味や用法に関する対照研究、(2) 日中漢字同形語の翻訳の諸問題に関する対照研究、(3) 日中漢字同形語における反転語 (“同素逆序词”) の対照研究、(4) 日中漢字同形語の字形に関する対照研究、(5) 日中漢字同形語の辞書的解釈の研究、(6) 語彙交流史の視点による日中漢字同形語の対照研究、といった6領域にまとめた。そのうち、(1) と (6) に関する研究が多いことが分かった。李惠娟 (2019) は中国知網により、2012～2018年に発表された論文を「日中同形語」というキーワードで検索した。全60本の論文を、(1) 日中同形語の比較研究、(2) 日中同形語の翻訳研究、(3) 日中同形語の誤用、といった3領域に分類した。また日中同形語に関する研究において、対照研究が主流であり、誤用に関する研究はほとんどないと指摘している。

これらに対して、筆者は日中漢字同形語に関する先行研究の問題点を3点指摘する。

(1) 胡泽华 (2012) のように研究期間が明示されていないものがあり、これまでの研究状況を理解するには、2018年以降の研究をレビューする必要がある。(2) 研究対象に関して、研究対象の収集期間は短くないが、研究対象となる論文数は多いとは言えない。また、中国で発表されたものを対象とした研究が多いが、日本で発表されたものは少ない。そして、中国と日本で発表された同形語研究のそれぞれの特徴は何か、明確にされていない。(3) 研究方法について、キーワードの選択が統一されておらず、キーワードの選択が正確か否か議論の余地がある。また、これまでの研究、主に発表された論文を収集し、手作業で分析されているため、研究者の主観、恣意性や分析ミスなどが入り込

4) 中国知網 (CNKI—China National Knowledge Infrastructure) は中国で刊行されている学術刊行物、重要な新聞、学位論文、学会論文などを検索できるデータベースである。(https://cnki.net/)

5) CiNii は学協会刊行物、大学研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事などを検索できるデータベースである。(https://cir.nii.ac.jp/)

6) 中国对外经济贸易大学編 (1979～2013)《日语学习与研究》中国对外经济贸易大学出版社。

んでいる可能性がある。

本研究では、分析が恣意的・主観的となることを極力回避するため、計量テキスト分析を行い、テキストマイニングツールを用いて日中両国の漢字同形語に関する論文の収集につとめ、過去10年間の研究動向を分析する。

3. 日中漢字同形語に関する研究文献の収集

中国と日本における漢字同形語に関する文献を網羅的に検索した。中国の文献を検索する際、国家知識基盤としての権威である学術ネットサイト「中国知網CNKI」を用いた。検索日は2023年7月19日である。日本の文献の検索には、国立情報学研究所が運営する「CiNii」を用いた。検索日は2023年7月18日である。また、「中国知網CNKI」における検索方法は次の通りである。“高级检索(詳細検索)”を用い、“主题(主題)”、“篇关摘(論文タイトル、論文キーワード、論文要旨)”を“同形词(同形語)”、検索範囲を「20130101-20230630」と設定して検索した。なお、論文の量と質を確保するため、“学术期刊(学術刊行物)”と“博硕论文(修士、博士学位論文)”のデータジャンルに絞って抽出した。日本の文献を検索する際、「同形語」というキーワードで検索範囲を「2013年～2023年」と設定して検索した。また、各文献のタイトル、キーワード、抄録を確認して研究対象としないものを除外した。

検索の結果、「中国知網CNKI」から537本が抽出され、タイトル、キーワードと抄録に基づいて日中漢字同形語に無関係の126本、重複した内容のもの4本を除外し、407本を本研究の研究対象とした。「CiNii」からは124本が抽出され、タイトル、キーワード、抄録に基づいて日中漢字同形語に無関係のもの5本、重複した内容のもの2本を除外し、117本を対象とした。そのうち、「中国知網CNKI」と「CiNii」に重複している論文が1本あった。抽出した論文の基本情報を収集し、オリジナルデータベース(論文名、著者名、発表年月、抄録/要旨、キーワード)を作成した。

4. 分析ツールと研究方法

抽出した文献の全てを読む作業量は膨大となり、手作業で計量的に捉えることは非常に困難である。そのため、フリーのテキストマイニングソフトであるKH Coder⁷⁾を利用し、計量テキスト分析を行い、研究動向の可視化を試みる。オリジナルデータベースを年代ごと、国ごとに分け、KH Coderを使用して分析を行い、研究課題の頻出語リス

7) KH Coder (Ver.3.Alpha.16)は立命館大学の樋口耕一氏によって製作され、本来は社会学の分野(アンケートの自由記述、インタビュー記録、新聞記事など)での利用が想定された内容分析およびテキストマイニング用のソフトウェアであるが、コーパスの分析、単語の頻度統計、単語の関連性分析などにも優れた機能を発揮するツールであると考えられる。(http://khcoder.net/)

トや共起ネットワークなどを作成して分析することによって、日本と中国における漢字同形語に関する研究の現状、特徴及びその課題を明らかにする。

KH Coderに基づくテキストデータマイニングの手順は、(1) テキストを収集し、TXT ファイルに整理する。(2) テキストデータを分析対象ファイルとしてKH Coderに入力して、抽出されたデータの正確性を保証するために語の取捨選択と前処理を行う。次に、(3) KH Coderの抽出語一覧機能を使用して出現頻度の高い語を抽出する。(4) キーワード検索機能を用い、キーワードの品詞、文脈などの情報を分析する。最後に、(5) 対応分析や共起ネットワークなどを作成し、その中の主要要素を考察する、という手順である。

5. 結果と考察

5.1 出現頻度の分析

分析対象となる論文は合計524本(中国の論文407本、日本の論文117本)あり、KH Coderを用いて前処理を実行した。続いてデータ集計を行った結果、中国の論文においては396の段落、3,165の文が確認された。また、抽出語数は106,025、異なり語数は6,794であった。使用しない語としては、繰り返しの回数が多く、分析に影響を与えるため、「論文」「中日」「日中」「漢日」「日漢」「中」「日」「漢」という単語を除外した。その結果、分析に使用される語として52,786語(異なり語数5,023)が抽出された。

日本の論文において124の段落、279の文が確認され、抽出語数は106,025、異なり語数は6,794であった。また「中日」「日中」という単語を除外した。その結果、分析に使用される語として4,808語(異なり語数950)が抽出された。これらの頻出語のうち、上位20語とその出現頻度を表1に示す。

表1 日中漢字同形語の論文における頻出語の一覧

順位	中国の論文		日本の論文		順位	中国の論文		日本の論文	
	頻出語	頻度	頻出語	頻度		頻出語	頻度	頻出語	頻度
1	同形詞	1,901	同形	283	11	分析	477	品詞	66
2	日语	1,228	日本語	187	12	对比	461	漢語	55
3	研究	1,141	学習	98	13	日本	437	教育	43
4	汉语	1,090	中国語	98	14	词义	418	音韻	38
5	学习	878	言語	77	15	偏誤	401	動詞	38
6	词汇	785	研究	75	16	意义	321	母語	35
7	翻译	764	語彙	75	17	差异	320	類似	34
8	教学	542	誤用	74	18	方面	319	習得	33
9	汉字	494	漢字	73	19	方法	303	調査	31
10	语言	494	意味	69	20	母语	299	対照	30

表1から分かるように、これらの出現頻度の高い語は漢字同形語に関する研究の対象、内容、方法などにかかわるものである。単語の出現頻度によって、それにかかわる研究の注目度を反映している。

「同形語」という語の出現頻度は最も高く、この結果が得られたことで研究対象とした同形語にかかわる研究を収集できていることが確認された。中国の論文においても日本の論文においても、「日本語」(日2中2)⁸⁾の頻度は「中国語」(日4中4)の頻度より高い。これは同形語である日本語にかかわるものが多く、日中同形語における中国語についての研究は少なく、まだ研究の余地があることを示唆している。また、日本の論文においては「品詞」という視点、特に「動詞」を研究するものが多く見られたが、中国の論文においては見られなかった。さらに、研究方法やツールには、「コーパス」(日32中51)、「辞書」(日84中50)はいずれも日中漢字同形語の研究の重点となる。しかし、「調査」(日19)、「実験」(日97)、「アンケート」(日444)は日本にしか現れず、漢字同形語の研究を行う際に実証的方法が好まれることが明らかになった。

上位六つの頻出語は日本語と中国語ではほぼ一致しており、「語彙」(日7中6)、「学習」(日3中5)、「研究」(日6中3)などの頻出の高い語から、漢字同形語の語彙研究とその学習方法は日中両国の研究の焦点であることを示唆している。

しかし、7位の頻出語をはじめ、日中には大きな違いがあることが分かった。中国の論文においては漢字同形語の「翻訳」(日34中7)と「教育」(日13中8)に関する研究を重視しているのに対して、日本の論文においては同形語の「誤用」(日8中15)と「習得」(日18中53)に重点が置かれている。ここから分かるように、漢字同形語の研究に関して、中国の論文においては主に教育者の視点から、同形語をどのように教えればよいのか、どのように翻訳すればよいのかについて研究されている。一方、日本の論文においては学習者の視点から、同形語の習得や誤用について研究されている、というそれぞれの特徴が浮かび上がってくる。

研究の内容については、日中両国とも漢字同形語の「対照」(日20中12)や「母語」(日16中20)が漢字同形語の学習に与える影響などの面から研究を行っている。日本の論文においては同形語の「音韻」(日14)、「共起」(日24)が研究されており、内容はより多く、範囲も広い。

なお、頻出語において、「法律」(日101中478)、「科学」(日493中1489)、「政治」(中228)、「軍事」(日334)という語も使用されていることが判明した。漢字同形語の研究はすでに法律、科学、政治、軍事などの特定の分野にも及んでいることを示唆している。ただし、出現頻度がまだ低いため、これらの分野の研究はまだ萌芽的段階であると考えられる。

8)「日本語」(日2中2)とは、日本の文献における「日本語」という単語の出現頻度が2位、中国での出現頻度の順位が2位ということを示す。

5.2 発表数と発表者

筆者は抽出した論文を、年ごとに発表数に応じてグラフ化することを試みた。図1を見ると、中国の論文においても日本の論文においても、漢字同形語に関する研究は過去10年間に於いて徐々に減少傾向にあり、2016年は中国の論文の発表本数は最も多い年であったが、日本の発表本数は最も少なかった。量的に見ると、中国で発表された論文は日本の4倍もあり、論文の著者を見てみると、日本の論文の多くは中国人留学生が発表したものであると分かった。これは、中国人研究者は漢字同形語に関する課題に、より深い関心を持っていることを反映している。続いて、図2の発表者を見ると、漢字同形語に関する研究は主に個人発表であることが分かった。しかし、課題によっては共同発表の場合もあり、特に日本の論文においては共同発表の本数は全体の4分の1(24本)を占め、そのうち18本は日中共同発表であったのに対して、中国の論文の共同発表の本数は41本あったが、そのうち日中共同発表は1本のみであった。

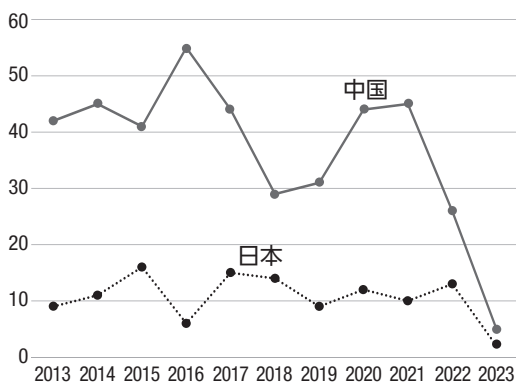


図1 年間発表数の一覧

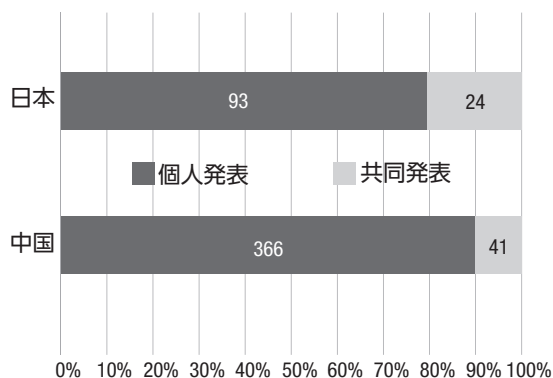


図2 発表パターンの一覧

5.3 共起ネットワーク分析

(1) サブグラフ検出

共起ネットワーク分析のサブグラフ検出では、相対的に強く結び付いている単語同士を自動的にグループ分けすることができる。グループは、サブグラフと呼ばれ、色別に示される。サブグラフ検出により、単語群レベルの分析が可能となる。

本項では、KH Coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、抽出した論文のタイトル、キーワードと抄録で、出現パターンの似通った語を線で結んだネットワークを描いた。なお、中国の論文と日本の論文では抽出した論文数に大きな差があり、比較するために異なる条件で分析した。中国の論文は単語の最小出現数を90、利用単語数を74、描画する共起関係をJaccard係数の上位60位に設定した。日本の論文は単語の最小出現数を1、利用単語数を79、描画する共起関係をJaccard係数の上位60位に設定した。また、

図表における円の大きさは単語の出現頻度を、リンクの太さは共起関係の強さを、色の塗り分けはグループの違いをそれぞれ意味する。

KH Coderにより、日中両国における漢字同形語研究の共起ネットワークが得られた。図3は中国の論文における漢字同形語研究の共起ネットワークである。共起ネットワークの全体を見ると、中国の漢字同形語に関する論文の本数は多いものの、研究内容は比較的集中しており、ノードは27個で、八つのグループに分かれている。一方、図4のように日本の論文の本数は少ないが、ノードは42個あり、10のグループに分かれており、日本の論文における研究テーマはより多種多様であることが判明した。グループによって、それぞれの語がどのようにまとまっていくのかを明確にするため、KH CoderのKWICコンコーダンスのコマンドを用い、その語の前後文脈も探って分析する。

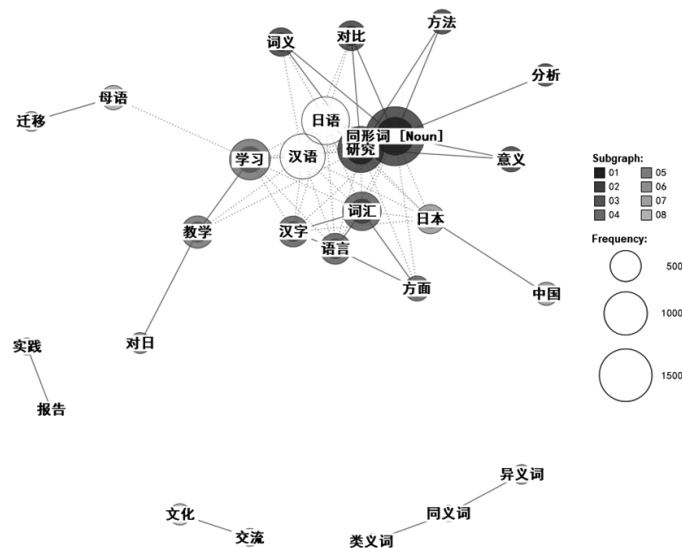


図3 中国の論文における漢字同形語研究の共起ネットワーク

図3の共起ネットワークから分かるように、中国の論文における漢字同形語の研究において、主に八つの課題研究が存在していることが分かった(表2)。

表2 共起ネットワーク分析による研究課題(中国の論文)

グループ	共起語	研究課題
1	同形語、研究、词义、对比、方法、分析、意义	同形語における意味の比較研究
2	词汇、语言、汉字、方面	同形語の伝播と進化に関する研究
3	学习、教学、对日	同形語の教育に関する研究
4	类义词、同义词、异义词	同形語の分類に関する研究
5	日本、中国	同形語の翻訳に関する研究
6	母语、迁移	同形語習得における母語の転移作用に関する研究
7	文化、交流	同形語の文化交流に関する研究
8	实践、报告	同形語に関する翻訳の実践レポート

「グループ1」では、“同形詞”が抽出語の1位であり、“研究”が抽出語の3位であった。この二つの語は“詞義”“対比”“方法”“分析”“意義”と結び付き、「同形語における意味の比較研究」が課題となっている。課題の内容としては、《关于中日同形词“不安”的对比研究》(薛, 2021)のような特定の漢字同形語に関する意味の比較研究と、《基于词义角度的中日同形字对比研究》(郭, 2020)のようなマクロな視点からの漢字同形語の比較研究の二つがあり、そのうち、特定の漢字同形語に関する意味の比較研究が多い。

「グループ2」では、“词汇”というキーワードを中心に展開されており、前後の文脈から見ると、基本的に“汉字词汇的传播”(漢字の伝播)の観点から研究されている。「グループ1」とは異なり、“汉字词汇”“语言传播”という言葉は主にキーワードや抄録に登場し、関連するテーマは、《中日近代汉字新词的创制与传播》(薛, 2021)のような同形語における日中両国の伝播の研究と、《中日同形词“章程”的语义演变》(朱, 2019)、《中日同形词“正确”的考源》(周, 2017)のような同形語の語源や語義の変遷に関する研究である。

「グループ3」のキーワードは“学习”“教学”であり、《中日同形词对比分析及对外(日)汉语教学启示》(徐, 2021)と、《日语汉字词汇习得影响因素及教学对策研究——以中日同形近义词为例》(陈, 2020)のような漢字同形語に関する教育研究である。「グループ4」では、“类义词”“同义词”“反义词”という同形語の類型がキーワードとして出ており、「同形語の分類研究」に関するグループであると確認できる。代表的な研究としては、《中日同形词分类对照研究》(谢, 2014)が挙げられる。注目すべきは、同形語を専門的に分類した研究は非常に少ないという点だ。

「グループ5」のキーワードは“日本”“中国”であり、KH CoderのKWICコンコーダンスのコマンドを用い、“日本”“中国”の前後の文脈を見ると、基本的に“翻译”という言葉が見られる。Jaccard係数を用いて分析を行ったところ、Jaccard係数は語の出現頻度だけでなく、他の語と共起しているか否かについても重視している。“翻译”という言葉は、出現頻度が高いものの、他の語との共起が比較的小さいため、共起ネットワークには現れない。“翻译”に関する研究には、《二字中日同形同义词的翻译研究——以〈紫罗兰永恒花园〉字幕翻译实例为中心——》(陈, 戴, 2019)、《中日同形词翻译中的词性转换研究》(王, 2017)などがある。また、前後の文脈によれば、“翻译”の共起語には“对比”“实践报告”などがある。ここで、“对比翻译”は「グループ1」に、“翻译实践报告”は次の「グループ8」に分類される。「グループ6」では“母语”“迁移”をキーワードとし、「グループ3」の“学习”と密接につながっており、「グループ3」の「同形語に関する教育研究」から派生した新しい研究のテーマであることを示している。代表的な研究としては、《母语迁移对日汉同形词习得的影响及教学启示》(魏, 2017)と、《中日同形词学习过程中的母语迁移作用》(王, 2014)が挙げられる。

「グループ7」では、“文化”“交流”という言葉が中心となったことから、同形語の文化交流に関するグループであると理解できる。《关于中日两国现代语言生活中的同形词

問題》(施, 2016) と、《在跨文化交际视角下探究中日同形语的影响》(查, 2022) などのような研究がある。近年「グループ7」のような研究が増加している。2020年以前は2本しかなかったのに対して、2020年以降は3本もあり、文化交流が漢字同形語に与える影響に関する研究が増えていることが分かった。“実践” “報告” の二つのキーワードから、「グループ8」は同形語に関する翻訳の実践レポートであることが分かり、このような研究は日本で発表された論文には見られない。代表的な研究には、《〈生命与家族〉的笔译实践报告》(王, 2022) と、《日文报刊短评中中日同形词的汉译方法的实践报告》(杜, 2017) がある。

日本の論文における漢字同形語研究の共起ネットワークは図4で示す。そして、日本の論文における漢字同形語の研究課題を表3に示す。

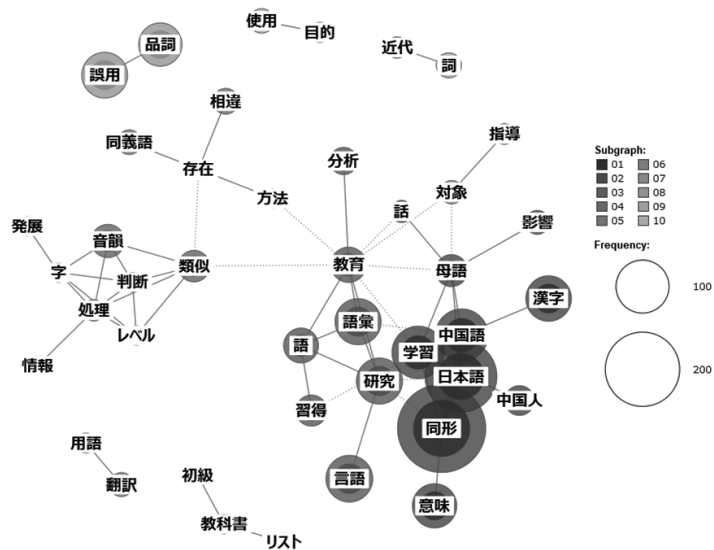


図4 日本の論文における漢字同形語研究の共起ネットワーク

表3 共起ネットワーク分析による研究課題（日本の論文）

グループ	共起語	研究課題
1	同形、日本語、中国語、学習、意味、中国人、母語、漢字、話、影響	同形語の意味に関する研究
2、6、10	語彙、教育、研究、言語、習得、語、分析、指導、対象、初級、教科書、リスト	同形語の教育に関する研究
3	音韻、類似、判断、处理、字、レベル、発展、情報	同形語の音韻に関する研究
4	相違、存在、同義語、方法	同形語の比較に関する研究
5	用語、翻訳	同形語の翻訳に関する研究
7	品詞、誤用	同形語の誤用に関する研究
8	近代、詞	同形語の伝播と進化に関する研究
9	使用、目的	同形語の使用実態に関する研究

「グループ1」のキーワードは最も多く、上位1位に抽出されていた語の「同形」を中心に「意味」「学習」などの語が密接につながっており、同形語の意味に関する研究であることが確認できる。中国の論文の「グループ1」とは異なり、日本の論文における漢字同形語の意味に関する研究は、「比較」だけでなく、「学習」「母語」の「影響」という視点から行われ、研究の方向性はより多様である。代表的な研究としては、「日中同形語の意味と語構成の相違」(吉, 2022)と、「中国人日本語学習者による日中同形語の意味習得:非漢字圏日本語学習者との比較を通して」(劉, 2021)が挙げられる。また、「母語の影響」に関する研究は、中国の論文における「グループ6」が単に母語・中国語であるという視点からの研究に対して、日本の論文においては、「日中同形語の学習における母語の影響について——日本人の中国語学習者を対象として——」(何龍, 2014)のように日本語を母語とする人の観点からの研究も行われている。

「グループ2」では、「教育」というキーワードを中心に展開されており、そして「語彙」「分析」「研究」「習得」「語」「言語」との結び付きから、同形語の教育に関する研究であると理解できる。関連する研究には、「日中同形語『勉強』『無理』『上等』『必死』の分析と日本語教育への応用について」(鈴木, 湯, 梅野, 2019)などがある。なお、「教育」は次の「グループ4」の「方法」にもつながっていることが注目され、これは日本の論文において漢字同形語の教育に関する研究が教育方法の探究にも深く踏み込んでいることが分かった。「中国語母語話者に対応した日本語教育について——日本語教師にできること——」(飯田, 2014)ではこの点を示している。

「グループ3」では、「音韻」という音声学的な言葉がキーワードとして出現し、「日本語母語話者による中日同形語の主観的音韻類似性判断の背景諸要因」(張, 2018)のように日中同形語の発音などの視点から研究を行っている。このような論文は抽出されたデータベースにおいて、計5本あり、いずれも共同研究として学術雑誌に発表され、研究費の支援を受けていた。中国の論文においてはそのような研究は見られない。

「グループ4」の共起語で最も頻出しているのは「相違」という漢語であり、同形語に関する対照研究であることが分かる。また、「相違」が「存在」を介して「同義語」と「方法」とも結び付いていることで、日本の論文における比較研究は、「中国語学習辞書における中日同形類義語の用例について——中国語語彙指導の観点からの考察——」(浅野, 2022)のような方法論の研究に偏っていることが分かった。一方、同形語の対照研究においても、日本の論文では「類義語」と「異義語」だけでなく、「同義語」の相違の研究にも注目している。「コロケーションの視点から見る中日『同形同義語』の相違性」(叶, 2022)がそれである。このような研究は中国の論文には見られない。

「グループ5」のキーワードは「用語」「翻訳」であり、同形語の翻訳に関する研究であると理解できる。中国の論文の「グループ5」との違いは、中国の論文では日中対訳に注目していることが多いのに対して、日本の論文では法律、地質、軍事などの専門用語

の翻訳に重点が置かれている。代表的な研究としては、「漢字同形語からみた日中法律用語の翻訳上の諸問題」(廖, 2014)などが挙げられる。「グループ6」(キーワード:「指導」「対象」)は学生に焦点を当て、「グループ10」(キーワードは「初級」「教科書」「リスト」)は教科書に焦点を当てている。いずれも教育研究に属し、「グループ2」の「同形語の教育に関する研究」に分類される。代表的な研究としては、「中国語母語話者を対象とした初級クラスにおける日中同形語指導の試み」(游, 2016)、「日本語教育語彙リストの開発——読解語彙6000語の選定——」(本田, 2023)が挙げられる。これは、日本の論文の同形語に関する研究は主に学生の立場からの研究であることを改めて示している。

「グループ7」では、「品詞」「誤用」という言葉が中心となったことから、同形語の誤用に関する研究であると分かった。また、中国の論文の同形語の誤用に関する研究は、全て教育関連の研究であるのに対して、日本の論文はコミュニケーションや品詞の観点から研究している。「日中同形語と授受動詞のコロケーションに関する誤用について」(河村, 2017)と「中日同形語の誤用——中国語で形容詞である中日同形語を中心に——」(何, 2015)などがそれである。

「グループ8」のキーワードは「近代」「詞」であり、中国の「グループ2」と同じく、同形語の語源と語義の変遷に関する研究である。代表的な研究としては、「日中同形語を歴史的に考える——江戸の蘭学文献を史料に」(荒川, 2021)と、「中国語の近代『国語』への進化に関する総合的研究: 欧化文法と日本語の影響を中心に」(沈, 2021)が挙げられる。「グループ9」では「使用」と「目的」をキーワードとし、「中国語を母語とする中級日本語学習者の発話に見られる日本語漢語名詞の使用状況——中国語の字音の影響を中心に——」(砂川, 黒沢, 2017)のような漢字同形語の使用実態に関する研究である。KWICコンコーダンスの分析を通じて、使用実態の研究は、使用者、使用目的、使用頻度、使用場面、使用範囲などの内容を含むことが分かった。

表2と表3から、日本と中国における漢字同形語の教育、翻訳、伝播と進化に関する研究は基本的に同じであり、同形語が研究の焦点になっていることが分かる。しかし、同形語の意味に関する研究では、中国の論文が主に比較の観点から研究しているのに対し、日本の論文は様々な観点から研究を行っている。また、中国の論文においては同形語の分類、母語の影響、文化交流などの面から研究を行っているが、日本の論文においては音韻、誤用、使用実態から同形語を研究している。日本の論文における音韻研究と中国の論文における翻訳の実践レポートは、もう一方には見られないものである。

(2) 中心性 (媒介)

中心性(媒介)の分析では、それぞれの単語がネットワーク構造のなかでどの程度中心的な役割を果たしているかを分析することができる。サブグラフ検出と同様の条件を設定し、分析の結果を図5、図6で示す。まず、関連性を見ると、主要なキーワードと

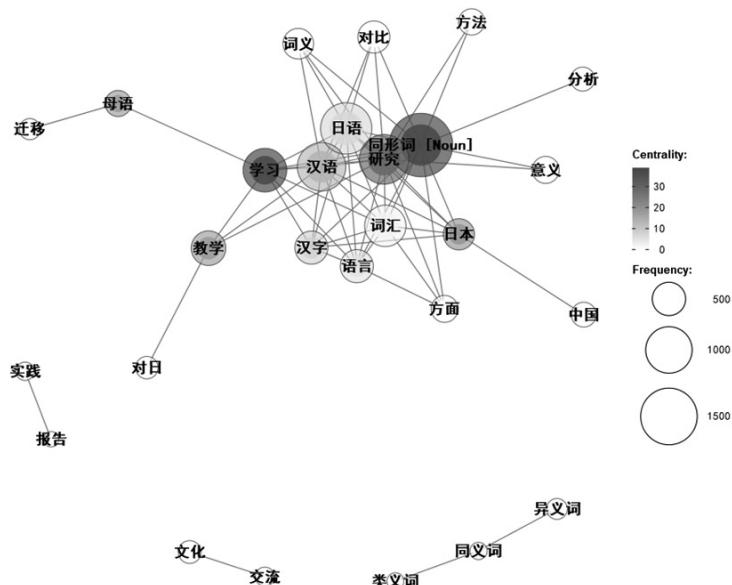


図5 中国の論文における漢字同形語の研究の共起ネットワーク・中心性(媒介)

の間に関連性が少なく、また関連性がないことは、グループ間で関連する研究課題が少なく、研究の余地があることが窺える。中国の論文では図5のように、「グループ4」、「グループ7」、「グループ8」の関連性は見られなかった。具体的には、漢字同形語の分類、文化交流及び翻訳の実践レポートについては、関連性は確認されなかった。特に、漢字同形語の分類に関する論文は意外に少ない。同形語はどのように分類すべきか、新しい分類方法があるのかについて、検討の余地があると窺える。

同じように、日本の論文の図6は、「グループ5」、「グループ7」、「グループ8」、「グループ9」、「グループ10」の関連性が見られなかった。具体的には、同形語の翻訳、誤用、伝播と語義の変遷、使用実態などについては、関連性が確認されなかった。特に、出現頻度が高い「翻訳」は予想に反する結果であった。「翻訳」は「用語」とつながっており、専門分野における同形語の翻訳にも多くの研究の余地があることを示唆している。

次に、中心性キーワードを見ると、中心性が高い単語ほど、研究においてより多くの注目を集め、それぞれの異なる研究と結び付けられれば、研究の焦点となる。また、円の濃淡は中心性の高低を意味しており、中心性が高い単語ほど、文脈を捉えるにあたり重要な単語として位置づけられる。中国の論文では図5のように、「同形词」、「学习」、「研究」、「母语」、「教学」、「日本」において単語同士につながりが見られた。とりわけ中心性が高い単語として「同形词」、「学习」が示された。この結果により、中国の論文における漢字同形語の研究は、基本的に「教育」という課題を中心に行われており、その中で母語が中国語であることによって漢字同形語の学習に与える影響が焦点となっていると思われる。日本の論文の図6を見ると、中心性が高い単語は明らかに「教育」と「類似」の

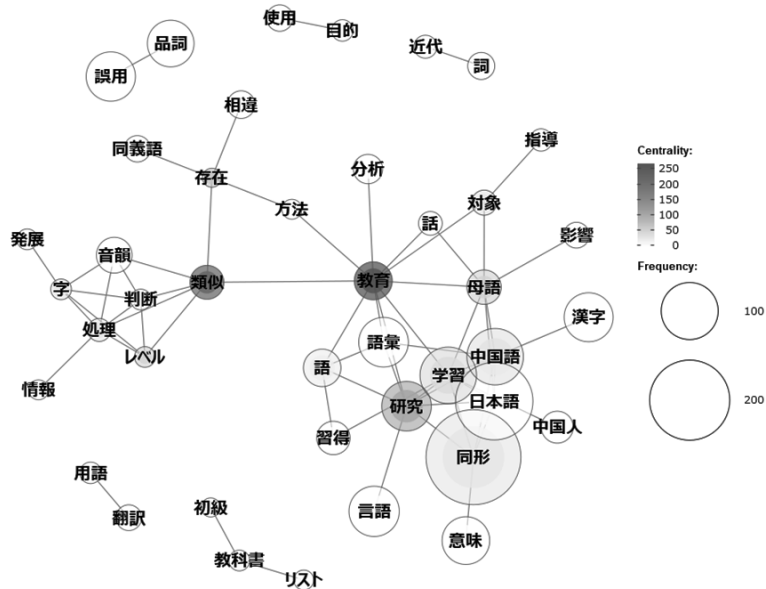


図6 日本の論文における漢字同形語の研究の共起ネットワーク・中心性(媒介)

二つであり、日本の論文における漢字同形語の研究は、「教育」と「類似性」という二つの課題を中心に行われていると確認できた。中国に比べれば、日本の「教育」に関する研究のほうがより多様性があり、教育の方法にも深く踏み込んでいることが窺える。「類似性」に関する研究は、主に音声学の視点から行われ、他に「品詞」「意味」「漢字表記」の類似性の研究もあった。

6. まとめと今後の課題

以上の分析から分かるように、漢字同形語に関する研究は過去10年間に於いて徐々に減少傾向にある。全体的に見ると、中国ではマクロ的な研究が進んでいるのに対して、日本では実証調査的な方法論の研究が進んでおり、研究課題は多種多様である。研究の内容から見ると、日中両国とも漢字同形語における「教育」、「比較対照」の研究を主要な課題としている。中国の論文では漢字同形語の総合的な論述などにおいて、日本の論文よりも成果が多く、さらに研究が深まっている。日本の論文においては実験、調査などの研究方法を通じて同形語の研究を行い、音声学の視点から同形語の習得研究など、革新的な課題が多い。

また、「教育」という課題について、中国の論文においては主に教師の立場から、漢字同形語をどのように教えればよいのか、どのように翻訳すればよいのか研究している。一方、日本の論文においては学生の視点から、同形語の習得や誤用について研究している。「対比」という課題では、中国の論文で主に「意味」から同形語を研究しているが、

日本の論文では「音韻」「意味」「品詞」「漢字表記」などの面から研究している。

以上の分析から、中国はさらに考察の視野を広げ、研究範囲を拡大し、同形語の研究方法を増やす必要があると思われる。一方、日本はさらにマクロ的な研究を強化する必要がある。

漢字同形語に関する研究は語源、語の変遷、語義や用法の相違、文法、教育など多くの分野にかかわる学際的研究とも言える。しかし、研究が少ない分野もある。筆者は日中両国において、特定分野の漢字同形語に関する研究に注目している。今回の調査では中国の論文には7本あり、関連分野には法律、社会科学、商務、政治などがあった。日本の論文は6本で、法律、地質、軍事などの分野が含まれていた。このような研究はまだ少なく、脆弱であり、研究の価値があると考ええる。

また、「日中対照漢字語データベースの開発と応用」(松下, 陳, 王, 陳, 2020)、「日本語と中国語の二言語併用者における言語間の干渉を低減する脳基盤の解明」(大井, 2012)のようなデータベース開発に関する研究や、心理学、脳科学の分野における研究もまだ少ない。日本の論文には2本しかなく、中国の論文には1本もなく、そして、同形語の共起ネットワークにも出てこないため、これらの研究は検討の余地があると窺える。現在、日中両国の研究者間の協力や共同研究の課題はまだ少なく、今後、両国の研究者は交流と協力を重視し、新しい研究課題を模索してこそ、より多くの研究成果を生み出すことができるであろう。

参考文献

- (1) 胡泽华 (2012)「中日同形西洋医学用語への考察」[未刊行修士論文] 苏州大学.
- (2) 任川海 (2014)「日本語と中国語における漢字同形異義語の意味の相違に関する研究——『日中辞書』『中日辞書』における辞書の解釈の問題点及び辞書本纂の諸問題をめぐって——」[未刊行修士論文] 京都外国語大学大学院.
- (3) 李惠娟 (2019)〈关于中日同形词的研究现状综述〉《现代职业教育》(27): 102-103.
- (4) 後藤佐昌子, 八軒浩子, 高田充隆, 近畿大学薬学部臨床薬剤情報学分野 (2011)「医療薬学研究の変遷に関する計量的分析」『医療薬学』37(1): 21-30.
- (5) 樋口耕一 (2020)『社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して(第2版)』ナカニシヤ出版.
- (6) 薛恬 (2021)〈关于中日同形词“不安”的对比研究〉《厦门大学外文学院第十四届研究生学术研讨会暨第四届外国语言文学博士论坛论文集》: 311.
- (7) 郭碧莹 (2020)〈基于词义角度的中日同形字对比研究〉《山西青年》(05): 163.
- (8) 薛桂谭 (2021)〈中日近代汉字新词的创制与传播〉《牡丹江大学学报》(09): 50-54.
- (9) 朱棠 (2019)〈中日同形词“章程”的语义演变〉《东北亚外语研究》7(03): 34-40.
- (10) 周菁 (2017)〈中日同形词“正确”的考源〉《浙江外国语学院学报》(02): 64-69.

- (11)徐义珂(2021)〈中日同形词对比分析及对外(日)汉语教学启示〉《作家天地》(10): 36-37.
- (12)陈振宇(2020)〈日语汉字词汇习得影响因素及教学对策研究——以中日同形近义词为例〉《开封文化艺术职业学院学报》40(09): 78-79.
- (13)谢琳(2014)〈中日同形词分类对照研究〉《中外企业家》(17): 246-248.
- (14)陈爱琴, 戴新怡(2019)〈二字中日同形同义词的翻译研究——以《紫罗兰永恒花园》字幕翻译实例为中心〉《英语广场》(11): 17-19.
- (15)王尤(2017)〈中日同形词翻译中的词性转换研究〉《语文建设》(05): 64-66.
- (16)魏翔宇(2017)〈母语迁移对日汉同形词习得的影响及教学启示〉《科教导刊(上旬刊)》(19): 102-104.
- (17)王骏琳(2014)《中日同形词学习过程中的母语迁移作用》[未刊行修士論文] 西南交通大学.
- (18)施建军(2016)〈关于中日两国现代语言生活中的同形词问题〉《汉日语言对比研究论丛》(01): 20-21.
- (19)查文凤(2022)〈在跨文化交际视角下探究中日同形语的影响〉《汉字文化》(14): 40-42.
- (20)王艺(2022)《〈生命与家族〉的笔译实践报告》[未刊行修士論文] 吉林大学.
- (21)杜梦云(2017)《日文报刊短评中中日同形词的汉译方法的实践报告》[未刊行修士論文] 燕山大学.
- (22)吉甜(2022)「日中同形語の意味と語構成の相違」『語彙研究』(19): 36-45.
- (23)劉楚心(2021)「中国人日本語学習者による日中同形語の意味習得：非漢字圏日本語学習者との比較を通して」『東アジア国際言語研究』(2): 45-53.
- (24)何龍(2014)「日中同形語の学習における母語の影響について：日本人の中国語学習者を対象として」『愛知淑徳大学大学院論集』研究科篇(6): 85-100.
- (25)鈴木基伸, 湯艶, 梅野由香里(2019)「日中同形語『勉強』『無理』『上等』『必死』の分析と日本語教育への応用について」『大手前大学論集』(20): 83-106.
- (26)飯田透(2014)「中国語母語話者に対応した日本語教育について：日本語教師にできること」『拓殖大学日本語紀要』(24): 69-79.
- (27)張婧禕(2018)「日本語母語話者による中日同形語の主観的音韻類似性判断の背景諸要因」『ことばの科学』(32): 61-78.
- (28)浅野雅樹(2022)「中国語学習辞書における中日同形類義語の用例について：中国語語彙指導の観点からの考察」『藝文研究』(132): 59-75.
- (29)叶栩邑(2022)「コロケーションの視点から見る中日「同形同義語」の相違性」『北陸大学紀要』(52): 295-308.
- (30)廖海濤(2014)「漢字同形語からみた日中法律用語の翻訳上の諸問題」『高崎経済大学論集』56(4): 99-111.
- (31)游能睿(2016)「中国語母語話者を対象とした初級クラスにおける日中同形語指導の試み」『日本語教育方法研究会誌』22(3): 88-89.
- (32)本田ゆかり(2023)「日本語教育語彙リストの開発——読解語彙6000語の選定——」(科学研究費助成事業, 基盤研究(C)) (<https://cir.nii.ac.jp/crid/1040000781996758912>).
- (33)河村静江(2017)「日中同形語と授受動詞のコロケーションに関する誤用について」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』(17): 35-48.
- (34)何宝年(2015)「中日同形語の誤用：中国語で形容詞である中日同形語を中心に」『日本学論

壇：新日本文化研究会会誌』(1)：1-18.

- (35)荒川清秀 (2021)「日中同形語を歴史的に考える——江戸の蘭学文献を史料に」『中国語学』(268)：1-21.
- (36)沈国威, 内田慶市 (2021)「中国語の近代『国語』への進化に関する総合的研究：欧化文法と日本語の影響を中心に」(科学研究費助成事業, 基盤研究(C))(<https://cir.nii.ac.jp/crid/1040282257093716096>).
- (37)砂川有里子, 黒沢晶子 (2017)「中国語を母語とする中級日本語学習者の発話に見られる日本語漢語名詞の使用状況：中国語の字音の影響を中心に」『日中言語研究と日本語教育』(10)：64-77.
- (38)松下達彦, 陳夢夏, 王雪竹, 陳林柯 (2020)「日中対照漢字語データベースの開発と応用」『日本語教育』(177)：62-76.
- (39)大井京 (2012)「日本語と中国語の二言語併用者における言語間の干渉を低減する脳基盤の解明」(科学研究費助成事業, 若手研究 (B)) (<https://cir.nii.ac.jp/crid/1040000782181790080>).



執筆者紹介

崔 子銘 京都外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻 言語文化領域

陳 功麟 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域

田 暁潔 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域

湯 皓祺 京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻（言語文化コース）
東アジア地域



編集代表

由井紀久子

(京都外国語大学大学院 外国語学研究科長 グローバル観光学科教授)

編集委員会

編集委員長

塚原真以子

(京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻 (実践言語教育コース) 日本語教育)

編集委員

王 昊天

(京都外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻 言語文化領域)

編集後記

2007年の創刊以来、大学院紀要『言語と文化』は今年で第18号目を迎えました。これもひとえに本紀要への関心を示してくださる関係者のみなさまのご協力によるものだと感謝しております。本紀要の編集は毎号、院生主体で行っておりますが、改善すべき点があり、今号の反省点は次号刊行における課題として引継ぎ、反映させたいと考えております。

本号刊行にあたり、ご多忙の中、執筆者のみなさんのご指導をしてくださった諸先生方、編集代表でいらっしゃる由井紀久子先生、刊行に関する相談に乗ってくださった大学院事務室のみなさま、編集作業の助言をくださった先輩方に、心から感謝いたします。

また、本紀要『言語と文化』が、多くの方にご覧いただけますことを心より願っております。

(編集委員長 塚原真以子)

『言語と文化』原稿執筆要項

1. 執筆資格

本学在籍中の大学院生、および編集委員会が認めたものとする。

2. 原稿の種類

論文、研究ノート、書評、翻訳およびその他、編集委員会が認めたものとする。

3. 原稿の枚数

論文は38字×32行を1ページとして以下の分量を目安とする。

1) 論文：約12,000字（A4で10頁程度、上限はA4で14頁とする）。

研究ノート：約8,000字（A4で7頁程度、上限はA4で8頁とする）。

翻訳：約12,000字（A4で10頁程度、上限はA4で10頁とする）。

書評：約2,000～2,800字（A4で1～2頁程度、上限はA4で2頁とする）。

2) 欧文原稿の目安は論文10頁5,000語程度、研究ノート7頁3,000語程度とする。

3) 論文の初めに要旨をつけること。要旨の分量は日本語・中国語の場合は800字まで、その他の欧米語の場合は1,600字までとする。また、タイトルは、目次ページに記載する際使用言語に関わらず欧文和文両方を必要とする。

4) 要旨と図表、参考文献や資料は上記1)の枚数に含まれるものとする。

4. 執筆の手続き

- 2024年7月19日(金)までに執筆申込書を編集委員会宛に提出する。執筆申込なしに送付された原稿は受理されない。ただし、執筆者が海外在住の場合、執筆者が指導教官に申込書を提出し、指導教官が申込書を提出してもよい。
- 2024年10月21日(月)までに執筆者は指導教官に原稿を予備提出し、指導を受けておく。
- 2024年11月4日(月)までに編集委員会にメールで完成原稿（WordとPDF両方）と図表ファイル（ExcelやPPT）を提出する。

5. 原稿の作成と提出

原稿は、編集委員指定の本要項を参照して作成し、表記等の校正作業については編集委員会に一任していただく。

原稿は完全原稿を提出すること。締切日を過ぎた原稿は受け付けない。完成原稿と原稿内で使用した図表を編集委員会にメール(g_bunka@kufs.ac.jp)で提出する。

完成原稿：WordとPDFの両方

原稿で使用した図表：ExcelやPPT

原稿は完全原稿を提出すること。締切日を過ぎた原稿は受け付けない。

6. 校正

執筆者校正は原則として2回までとし、文章の大幅な加筆・修正は認めない。

7. 原稿の採否

編集委員会によって決定される。

8. 原稿の掲載

当該号の投稿論文数、その他の事情により、次号に繰り越す場合がある。

その場合、編集委員会は投稿者に連絡し、協議するものとする。

9. 執筆申込先および原稿送付先

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学大学院事務室
『言語と文化』編集委員会 e-mail: g_bunka@kufs.ac.jp

10. その他

必要な事項については、編集委員会の議を経て決定する。

11. 著作権について

掲載原稿の著作権は、著者に帰属する。ただし、編集委員会は、掲載原稿を電子化し、公開・配布するための権利を有するものとする。

京都外国語大学『言語と文化』第18号

2024年3月15日 印刷

2024年3月15日 発行

編集兼 京都外国語大学大学院外国語学研究科
発行所 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6